

HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン : 5.0

カスタマイズ

ビルド番号 : 120



利用規約

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア

所有、使用、コピーには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

著作権

(c) Copyright 1994-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	9
本書の使用目的	9
本書の対象ユーザ	9
本書の内容	9
1. クライアントコンピュータのカスタマイズ	13
1. クライアントワークステーションのカスタマイズ	15
モジュールの起動	15
ツールバーのカスタマイズ	16
タブページのカスタマイズ	18
一般的なオプション	19
ボタンのカスタマイズ	21
ユーザ設定	23
2. ビューの使用方法	25
ビューの定義	26
ビューを作成するには	27
ビューを表示するには	27
ビューを削除するには	27
ビューを変更するには	28

ビューを編集するには	28
画面上のボタンへのビューの関連付け	28
II. データベースのカスタマイズ	31
3. データベースのカスタマイズ	33
開発のベストプラクティス	34
既存のオブジェクトのカスタマイズ	35
新規オブジェクトの作成	45
画面セット	65
テスト用データベースで用意されたカスタマイズ	74
複数のオペレータによって同時に行なわれたカスタマイズ	78
4. データベースオプション	103
データベースオプションを設定するには	103
データベースオプションの設定ウィンドウ	104
インデックス	111

図の一覧表

1.1. 詳細画面のタブページの設定	19
2.1. ビューに保存される項目	26
3.1. AssetCenter Database Administrator - メイン画面	36
3.2. 複数のオペレータによるカスタマイズ - 単純なプロセス	81

表の一覧表

3.1. フィールドとリンクのヘルプが認識するHTMLタグ	42
3.2. 予約文字	43
3.3. データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル	96
4.1. データベースオプション - 使用可能なオプションの説明	105

はじめに

本書の使用目的

- 本書ではAssetCenterの次のレベルでのカスタマイズ方法について説明します。
- クライアントコンピュータレベル
 - データベースレベル

本書の対象ユーザ

- 本書は次のようなユーザを対象としています。
- ユーザインタフェースをカスタマイズしたいAssetCenterのエンドユーザ
 - AssetCenterデータベースをカスタマイズしたいAssetCenter管理者

本書の内容

「クライアントワークステーションのカスタマイズ」の章

- 本章では、クライアントコンピュータでのAssetCenterユーザインタフェースのカスタマイズ方法について説明します。
- 有効なモジュール
 - ツールバー

- タブページ
- 一般的なオプション
- ボタン

「ビューの使用方法」の章

本章では、ビューの作成、表示、削除、変更方法、およびビューとボタンとを関連付ける方法について説明します。

「データベースのカスタマイズ」の章

本章では、AssetCenterデータベースのカスタマイズ方法について説明します。

- 既存のオブジェクトをカスタマイズする
- 新規オブジェクトを作成する
- テスト用データベースでカスタマイズの準備を行う
- チームとしてカスタマイズプロセスを管理する

「データベースオプション」の章

本章では、データベースオプションの設定方法について説明します。

これらのオプションは、データベースに接続するすべてのクライアントコンピュータに共通です。

本書で使用される表記法

本書で使用される表記法は以下の通りです。

表記法	説明
Java Scriptコード	コードやコマンドの例
Courier体のテキスト	DOSコマンド、関数のパラメータ、データフォーマット
...	コードまたはコマンドの省略部分
注意:	有益な注意事項
補足情報	
重要項目:	重要な情報
以下の注意事項は...	
ヒント:	アプリケーションを使用する際に役立つヒント
使用上のヒント	
警告:	非常に重要な情報
警告情報	

表記法	説明
[オブジェクト名]	AssetCenterのインターフェースのオブジェクト： メニュー、メニューエントリ、タブ、ボタン

次の規則も適用されます。

- 指定した順番で実行するステップは、次の例のように番号を付けて表示されます。
 - 1 手順1
 - 2 手順2
 - 3 手順3
- すべての図とテーブルには、それが示されている章と、その章に記載されている順番に応じた番号が付いています。例えば、第2章の4番目のテーブルのタイトルは、表**2-4** というように表されます。

I クライアントコンピュータのカスタマイズ

1 クライアントワークステーションのカスタマイズ

本章ではワークスペースをカスタマイズする方法を説明します。

以下の実行方法について説明します。

- 必要な機能のみを選択する。
- 画面上での情報の表示方法をカスタマイズする。
- ニーズに最も適したインタフェースを使用するオプションを定義する。

すべてのユーザが、ワークステーションレベルでAssetCenterをカスタマイズできます。これらの変更は、変更を行ったユーザのワークステーションにのみ関係します。他のワークステーションには影響しません。

デフォルトの画面設定に戻す場合は、[ツール / 画面の最初期化] メニューを選択すると、カスタマイズのオプションをセッション中にキャンセルできます。

モジュールの起動

AssetCenterでは、コンピュータ上で起動するモジュールを制限することができます。各モジュールはそれぞれ機能の一部をカバーし、機能に応じたメニュー、画面、ウィザードをグラフィカルインタフェースに表示します。

使用しないモジュールを非アクティブ化することにより、ユーザインタフェースを簡略化することができます。

各クライアントコンピュータのレベルでモジュールを選択し、個々に起動するには、[ファイル / モジュールの起動] メニューを選択します。

モジュールを有効または無効にするには、以下の手順のいずれかを使用してください。

- 1 モジュールのアイコンをクリックします。



注意:

矢印キーを使用してモジュールリストを上下にスクロールしたり、スペースバーを使用してリスト表示をオンまたはオフにすることができます。

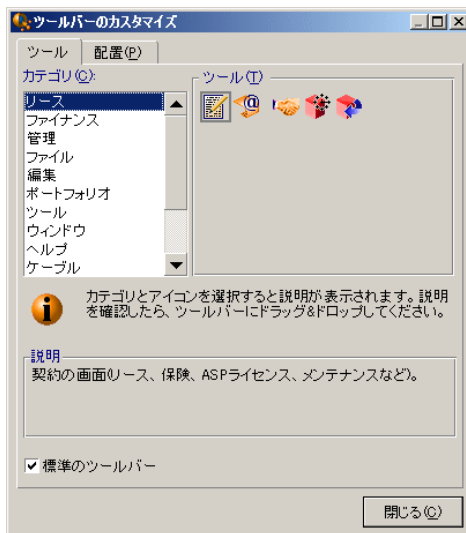
- 2 [OK] をクリックして、変更を確定します。

ツールバーのカスタマイズ

ここでは、AssetCenterのツールバーのカスタマイズ方法について説明します。

ツールバーにアイコンを追加する

- 1 [ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択します。



- 2 追加するボタンを含んでいる「カテゴリ」を選択します。
[ツール] 枠内にはそのカテゴリに属するすべてのボタンが表示されます。
[説明] 枠には、選択したボタンの説明が表示されます。

- 3 [ツール] 枠でボタンを選択し、ツールバーの希望の位置までドラッグします。
ツールバーにボタンが挿入され、それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

ツールバーからボタンを削除する

ボタンを選択し、ツールバーの外にドラッグします。それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

ツールバー内のボタンの位置を変更する

ボタンを選択し、ツールバーの別の位置までドラッグします。ツールバーが変更され、サイズも変更されます。

ツールバーに境界線を追加する

境界線を追加したい位置の左（または下）にあるボタンを選択します。次に、ボタンをボタンの右半分程度（縦長のツールバーの場合は下半分）ドラッグします。ボタンの前に境界線が追加され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。



2本の境界線を追加することはできません。2つのボタンの間に挿入できる境界線は1本だけです。

ツールバーから境界線を削除する

境界線の左隣のボタンを選択し、境界線の上にドラッグします。ツールバーから境界線が削除され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。

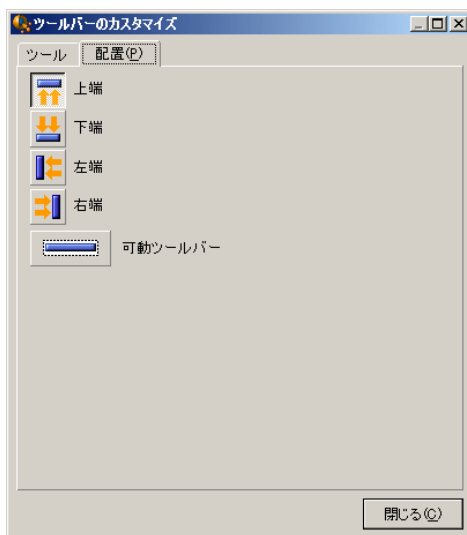
デフォルトのツールバーを表示する

[標準のツールバー] チェックボックスをオンにするとAssetCenterのデフォルトの標準ツールバーを復元できます。

標準ツールバーを復元すると、カスタマイズが失われます。

ツールバーの位置を変更する

ワークスペースのどこにツールバーを配置するかは、[ツールバーのカスタマイズ] ウィンドウの [配置] タブを使って変更できます。



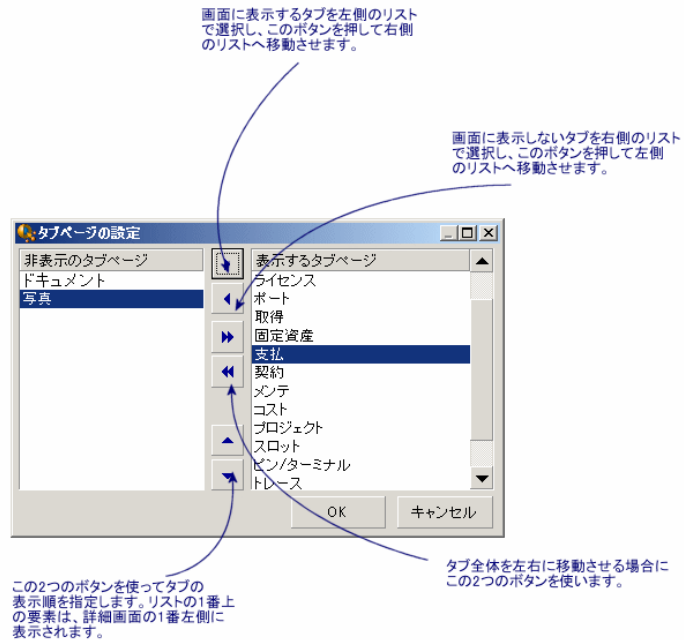
ツールバーの位置を変更するには、位置に対応するボタンをクリックします。
[可動ツールバー] を選択すると、ツールバーをワークスペースの任意の場所に移動できます。

タブページのカスタマイズ

各ユーザは詳細画面に表示するタブページとその表示順を選択することができます。タブページの表示をカスタマイズしても、他のワークステーションの設定は変わりません。

タブページの表示を変更するには、[ツール/タブページの設定] ショートカットメニューを使用するか、タブページゾーンにカーソルを置いたときの全般メニューの [ツール/タブページの設定] を使用します。

図 1.1. 詳細画面のタブページの設定



- 非表示のタブページを表示するには、左側のリストでタブページ名をダブルクリックします。
- 表示されているタブページを非表示にするには、右側のリストでタブページ名をダブルクリックします。
- 右側のリストの項目の順番を変更できます。希望の項目をクリックし、リストの左にある上矢印ボタンと下矢印ボタンを使って項目を新しい位置に移動させます。リストで最上位のタブページが詳細画面の一番左に表示されます。

一般的なオプション

AssetCenterのオプションを設定するには、[編集/オプション]メニューを使用します。

 **注意:**

これらのオプションは、ワークセッション中にオプションが定義されたコンピュータ、またはオプションを定義したユーザ（つまりログイン名）のどちらかに関連付けられます。ワークステーションに適用されるオプションは、そのユーザが必ずしも接続していなくても使用することができます。

オプションの内容と設定方法を知るには、

- 1 [オプション] ウィンドウを表示します（[編集/オプション]メニュー）。
- 2 目的のオプションを選択します。
- 3 [オプション] ウィンドウに表示される[説明]フィールドを参照します。

オプションを変更するには、

- 1 [オプション] ウィンドウを表示します（[編集/オプション]メニュー）。
- 2 変更するオプションを選択します。
- 3 [値]列をクリックします。
- 4 リストがある場合にはリストから値を選択します。またはキーボードで値を入力します。

 **注意:**

[OK] をクリックすると、ウィンドウでのオプションに対する変更が保存されません。

ボタンの機能

- [リセット]：全オプション値がデフォルト値へ戻され、リセットされた値が保存されます。

 **警告:**

リセットをキャンセルすることはできません。
オプションの一部のみをリセットすることはできません。

- [適用]：全オプション値を保存しますが、ウィンドウは開いたままになります。

 **警告:**

この操作をキャンセルすることはできません。

- [OK]：全オプションの値を保存し、ウィンドウを閉じます。

管理者用の情報

オプションには次の種類があります。

- データベースから独立したオプション
オプション値は、オプションを定義するコンピュータのハードディスクに保存されます。
- データベースに依存するオプション
オプション値はデータベース内に保存され、オプションの変更時に使用されたログインに関連付けられます。
他のユーザが別のコンピュータからデータベースへ接続しても、同一のログインを使用する場合、同じオプション設定を使用することになります。

 ヒント:




オプションがデータベースから独立しているかどうかを確認するには、

- 1 データベースに接続せずにAssetCenterを起動します（すでにデータベースに接続している場合は切断します）。
 - 2 [オプション]ウィンドウを表示します（[編集/オプション]メニュー）。
 - 3 現在このウィンドウで使用可能なオプションは、データベースから独立したオプションのみです（これらはコンピュータのハードディスクに保存されています）。このウィンドウのすべてのデータベース依存オプションは灰色表示になっています。
-

ボタンのカスタマイズ

画面上のボタンは、以下のオブジェクトタイプのどれにでも関連付けることができます。

- アクション
- 画面
- ビュー
- 書式
- レポート

ボタンの主機能は有効なままです（例えば、[複製]ボタンはレコードを複製します）。ただし、ボタン、ボタン、ボタンは例外で、関連付けを行うと主機能は実行されなくなります。

オブジェクトは以下のように関連付けされます。

- [新規作成]ボタンと[複製]ボタンの主機能の前。
- [作成]ボタン、[変更]ボタン、[作成/複製]ボタンの主機能の後。

関連するオブジェクトの実行でエラーが発生した場合、ボタンの主機能は実行されないこともあります。

必要条件

ボタンを変更してオブジェクトを関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 [オプション] ウィンドウを表示します ([編集 / オプション])。
- 2 オプション [編集 / 画面のボタンのカスタマイズを可能にする] を選択します。
- 3 値を [はい] に設定します。
- 4 [OK] をクリックします。

オブジェクトをボタンに関連付ける

オブジェクトをボタンに関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します ([ポートフォリオ / コンピュータ] など)。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ショートカットメニューから [カスタマイズ] を選択します。
- 3 関連付けるオブジェクトを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ボタンに関連付けられたオブジェクトを変更する

ボタンに関連付けられたオブジェクトを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します ([ポートフォリオ / コンピュータ] など)。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ショートカットメニューから [カスタマイズ設定の編集] を選択します。
- 3 新たに関連付けするオブジェクトを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ボタンに関連付けられたオブジェクトを削除する

ボタンに関連付けられたオブジェクトを削除するには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します ([ポートフォリオ / コンピュータ] など)。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ショートカットメニューから [カスタマイズ設定の削除] を選択します。



確認を求められることはありません。

補足情報

ボタンに対する変更はただちにデータベースに保存されます。[管理/データベース設定の保存]メニューを使用する必要はありません。

カスタマイズウィンドウに表示されるオブジェクトは、機能ドメインの順番に並べられます。

AssetCenter Database Administratorでは以下のことも可能です。

- 画面に新規ボタンを追加する
 - オブジェクトをボタンに関連付ける
- 詳細については、以下を参照してください。
- 本マニュアルの「[ボタン \[献 44 \]](#)」の節。
 - 本マニュアルの「[アクション用ボタンの作成 \[献 51 \]](#)」の節。

ユーザ設定

デフォルトでは、AssetCenterはユーザ設定を [**amSysConfig**] テーブルに保存します。ユーザが設定 (オプション、ウィンドウサイズ、有効モジュール、リストおよびサブリスト設定、フィルタ、ビューなど) を変更すると、データベースの対応するレコードが更新されます。

ユーザが設定を更新できないようにし、デフォルトの設定を定義するには、次の手順に従います。

- AssetCenterをカスタマイズして、必要なユーザ設定を作成します。この設定を標準の設定として使用します。
- [管理/画面一覧]メニューを選択します。
- [**amSysConfig**] テーブルを選択します。
- [セクション] がUserで始まるすべてのレコードを選択して複製します。

注意:

この複製の目的は、元のユーザ設定を保存しておくことです。

- [**amSysConfig**] テーブルの [**EmployeeId**] の値を0に設定するアクションを作成します。これは、設定をすべてのユーザに適用するように指定するためです。このためには、次の手順に従います。
 - [ツール/アクション/編集]メニューを選択します。
 - [新規作成]をクリックし、アクションの [名前] を定義し (例えば、[**Config**])、[コンテキスト]として [**amSysConfig**] を選択し、[タイプ]として [スクリプト] を選択します。
 - [スクリプト] タブで、次のスクリプトを入力します。

```
Set [EmplDeptId]=0
```

- [作成] をクリックして作成を終了します。
 - 先ほど複製したレコードに対してこのアクションを実行します。
 - すべてのユーザに対して、[**amSysConfig**] テーブルに対する読取り専用のユーザ権限を定義します。
-

 **注意:**

ユーザ権限の定義の詳細については、マニュアル『管理』の「データベースへのアクセスコントロール」の章を参照してください。

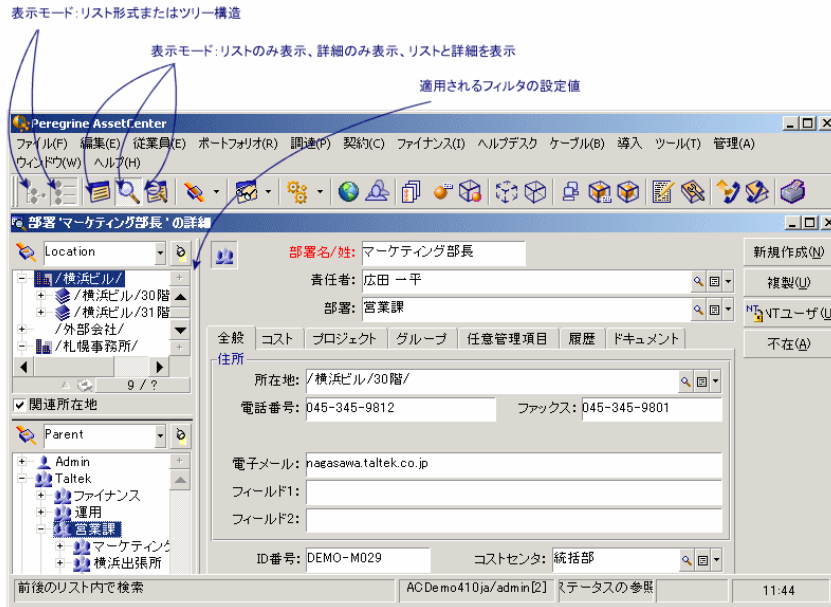
 **重要項目:**

この手順が有効なのは、まだデータベースに接続したことがないユーザに対してだけです。これらのユーザは [**amSysConfig**] テーブルにまだレコードを持っていないからです。すでにデータベースに接続したことのあるユーザの場合、ユーザ設定がテーブルに保存されています。これらの設定を無効にしてデフォルトの設定を適用するには、そのユーザに対応するレコードを削除する以外に方法がありません。

2 ビューの使用方法

本章では、AssetCenterのビューの使用方法について説明します。
ビューのリストを表示するには、[ツール/ビュー]メニューを使用します。

図 2.1. ビューに保存される項目



ビューの定義

ビューを使うと、メインリストの次の表示パラメータを保存することができます。

- 表示モード: [リスト形式で表示] または [ツリー構造で表示]
- 表示モード: [詳細のみ]、[リストのみ]、または [リストと詳細]
- 並べ替えの基準
- 適用するフィルタとフィルタの値
- 表示列と幅のリスト
- ウィンドウのサイズ

ビューを作成すると、定期的な作成が必要のあるレポートを簡単に作成できます。一度ビューを表示すると、毎回同じレイアウトでビューを印刷できます。

例

- 50万円を超す未割当ての資産のリスト
- Faxを設置しているすべてのオフィスの、オフィス番号、Faxモデル、ユーザー名を示したリスト

ビューを作成するには

- 1 ビューを作成するには、ビューとして保存する条件でリストを表示します。
- 2 [ツール/ビュー/現在のウィンドウから作成]メニューを使ってこのビューを保存します。

ビューのテーブルへのアクセス権限を持つAssetCenterのユーザ全員がビューを作成できます。他のユーザがビューにアクセスできるようにするかどうかは、ビューの作成者が[共有しない]オプションを選択または選択解除することで決まります。AssetCenterの管理者は、ユーザが非公開に設定したビューも含め、ユーザ全員が作成したビューを表示、変更、および削除できます。

ビューを表示するには


[ツール/ビュー]メニューから表示するビューを選択します。

メニューに表示されるビューは、自分で作成したビューと管理者が公開しているビューだけです([メニューに表示](SQL名:bVisible)オプションをオンにする必要があります)。

ビューは、保存したすべてのパラメータを使って表示されます。

同じ情報のリストが既に表示されている場合でも、新しいウィンドウが表示されます。ウィンドウタイトルにはビューの名前が表示されます。

 **注意:**

ツールバーのボタンを使って、ビューのリストを表示することもできます。このボタンをクリックすると、最後に表示したビューのアイコンが表示されます。

ビューを削除するには

- 方法(1)
 - 1 ビューを表示します。
 - 2 [ツール/ビュー/現在のビューをはずす]メニューを使って、ビューを削除します。
- 方法(2)
 - 1 [ツール/ビュー/編集]メニューを選択して、ビューのテーブルを表示します。
 - 2 はずすビューを選択します。

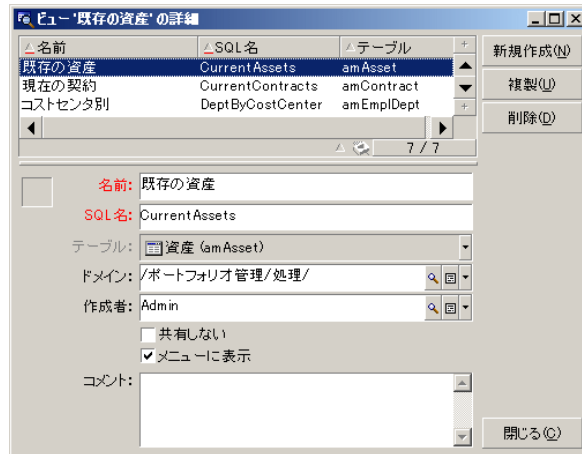
- 3 [削除]をクリックします。

ビューを変更するには

- 1 画面にビューを表示します。
- 2 表示パラメータを変更します。
- 3 [ツール/ビュー/現在のビューを変更]メニューを使って変更を保存します。

ビューを編集するには

管理者は、[ツール/ビュー/編集]メニューを用いて既存のすべてのビューのリストにアクセスすることができます。



管理者は、選択したビューの詳細画面の各フィールドに値を割り当てる必要があります。

画面上のボタンへのビューの関連付け

画面上のボタンにビューを関連付けるにはいくつかの方法があります。詳細については以下を参照してください。

- 本マニュアルの「[ボタンのカスタマイズ \[献 21\]](#)」の節。
- 本マニュアルの「[ボタン \[献 44\]](#)」の節。
- 本マニュアルの「[アクション用ボタンの作成 \[献 51\]](#)」の節。

II データベースのカスタマイズ

3 データベースのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorでは、企業のニーズに合わせてデータベースをカスタマイズすることができます。

このレベルのカスタマイズは、管理者が行います。

変更が、AssetCenterのユーザに表示されます。全ユーザが、管理者が定義した通りに、同じ方法でデータベースを表示することになります。管理者がフィールドまたはリンクの名前を変更すると、AssetCenterで（特にリスト画面、詳細画面、クエリの作成時に）用いられるときに新しい名前が表示されます。

次のセクションでは、AssetCenterデータベースのさまざまなオブジェクト（テーブル、フィールド、リンク、インデックス、画面など）をカスタマイズする方法について詳しく説明します。

- 既存のオブジェクト。
- 新規オブジェクト。

開発のベストプラクティス

テスト機能ドメインを使用してデータベースオブジェクトをカスタマイズする

推奨事項

テスト機能ドメインを可視にする前に、新規オブジェクトやオブジェクトの新規バージョン（特にウィザードなど）をそのテスト機能ドメインに関連付けることを推奨します。

テスト機能ドメインをマスクして、開発中のアクションをユーザから隠しておくこともできます。

理由

オブジェクトが正しくなければ、そのオブジェクトのリンク先である機能ドメインがAssetCenter WebのWebサービスとして生成されません。

このため、機能ドメインにリンクされているすべてのオブジェクトは（正しいオブジェクトさえも）AssetCenter Webが公開するWebサービスから消えてしまいます。

実装

オブジェクトをテスト機能ドメインに関連付けるには、以下の手順を実行します。

- 1 WindowsまたはWebクライアントを起動します。
- 2 機能ドメインを表示します（ナビゲーションバーにある [管理 / 機能ドメイン] リンク）。
- 3 テスト機能ドメインを作成します。
この機能ドメイン向けにWebサービスが生成されないことを確認するため、[**Web**サービス]（seWebService）フィールドに「なし」を入力してください。
- 4 テスト機能ドメインのSQL名を書きとめておきます。
- 5 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 6 新規オブジェクトまたは変更対象のオブジェクトを選択します。
- 7 テスト機能ドメインのSQL名をオブジェクトを [ドメイン]（Domain）フィールドに入力し、テスト機能ドメインにリンクします。
- 7 オブジェクトのテストと検証をすませたら、オブジェクトを適切な公開されている機能ドメインにリンクします。

既存のオブジェクトのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorでは、データベースの既存のオブジェクトのみをカスタマイズできます。AssetCenter使用時の問題発生を避けるために、特定のオブジェクト値とオブジェクトは読取り専用になっています。

データベースのオブジェクトをカスタマイズするには、データベース記述ファイル（「gbbase.xml」）を編集します。

AssetCenter Database Administratorでデータベースをカスタマイズするには次の2通りの方法があります。

- データベースを作成する前にカスタマイズする。
- データベースを作成した後にカスタマイズする。

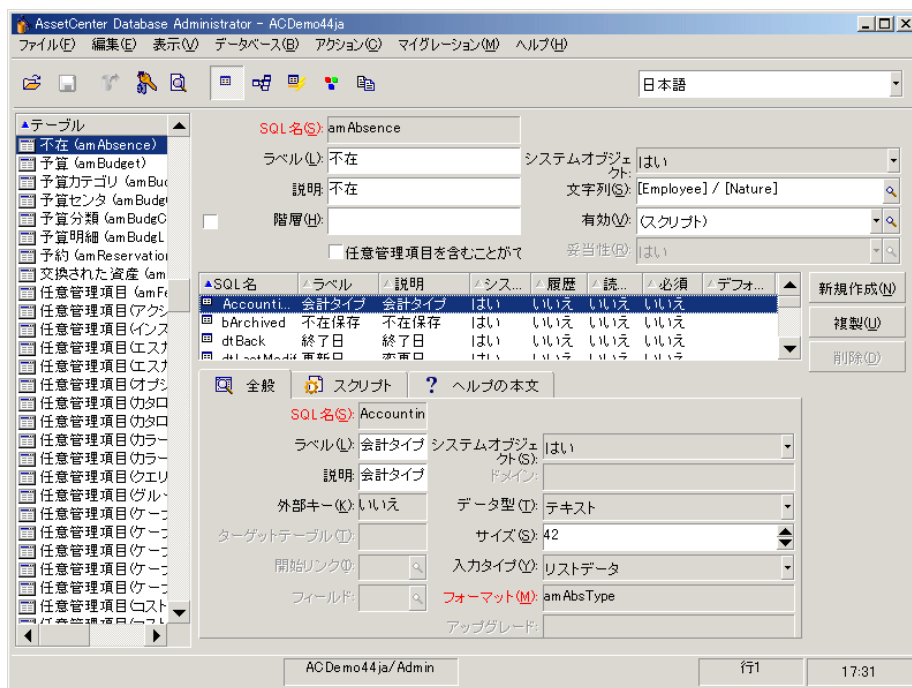
注意:

2つの方法の違いとして、「テキスト」フィールドのサイズを変更できるはデータベースを作成する前だけです。

上記のそれぞれの方法について、次の2段階のカスタマイズが可能です。

- テーブルのカスタマイズ
- テーブルのオブジェクト（フィールド、リンク、インデックス、画面、ページ）のカスタマイズ

図 3.1. AssetCenter Database Administrator - メイン画面



テーブルをカスタマイズする

テーブルをカスタマイズする場合は、次の変更が可能です。

- [説明] フィールド。
- [ラベル] フィールド。AssetCenterで表示するテーブル名です。
- [文字列] フィールド。AssetCenterでこのテーブルのレコードを表示する文字列を構成できます。
- [有効] フィールド。データベース内の特定のテーブルの全レコードに適用されます。選択しているテーブル内のレコードを作成または変更できるかどうかを定義できます。
 - このフィールドを [はい] に設定すると、そのテーブルで常時レコードを作成または変更できます。
 - このフィールドを [いいえ] に設定すると、そのテーブルでレコードを作成または変更できません。
 - このフィールドを [スク립ト] に設定すると、そのテーブルでレコードを作成または変更できる条件を指定するスク립トを定義できます。

例えば、[数値]型の任意管理項目の値が特定の限界値を超えた場合は、レコードを作成しないように制限することができます。次のスクリプトは、[amFeature]テーブルの[有効]フィールドを定義した例です。

```
if [seDataType] = 1 and [fMin] > [fMax] Then
Err.Raise(-1, "[最低]フィールドには、[最高]フィールドよりも小さい値を指定してください。")
RetVal = FALSE
Else
RetVal = TRUE
End If
```

注意:

関係するテーブルの「有効」フィールドの値によってレコードの作成または変更を無効にする場合は、警告のため標準Basic関数「Err.Raise」を使ってユーザの画面にエラーメッセージが表示されるようにします。エラーメッセージにより、ユーザにレコードを変更または作成できない理由を知らせることができます。

[SQL名]フィールドは変更できません。このフィールドはテーブルのSQL名を示します。


- [任意管理項目を含むことができる] オプションを選択すると、テーブルに任意管理項目を含めることができます。
この操作は、取り消し不可能です。


オブジェクトをカスタマイズする


2番目のカスタマイズ枠では、選択したタイプのオブジェクトがすべて一覧表示されます。


リスト内のオブジェクトを選択すると、第3のカスタマイズ枠にそのオブジェクトの詳細情報が表示されます。


 **注意:**


赤の  アイコンは、このテーブルの主キーを表します。

黄色の  アイコンは、外部キーを表します。

 アイコンは、インデックスに属するフィールドを表します。

 アイコンは、同じインデックスが付いたフィールド一式が同じテーブル内に複数存在できないことを表します。

 アイコンは、"NULL"値を除き、同じインデックスが付いたフィールド一式が同じテーブル内に複数存在できないことを示します。NULL値の場合は、何回でも複製できます。

 アイコンは、1リンクを表します。

 アイコンは、nリンクを表します。

フィールド、リンク、インデックスのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorのカスタマイズ

このタイプのオブジェクトでは、次の変更が可能です。

[全般] タブページでは、次の情報を指定できます。

- [ラベル] フィールド
- [説明] フィールド
- [サイズ] フィールド: 「テキスト」型のフィールドのサイズを指定します。このフィールドは、データベースを作成する前にカスタマイズする場合、またはデータベース記述ファイルを変更する場合にのみ編集できます。最大サイズは255文字(半角の場合)です。

[スクリプト] タブページでは、次の情報を指定できます。

 **注意:**

次の属性は、指定した場合を除き、ユーザインタフェースを介してまたは外部ツールを使ってデータベースにアクセスする場合にも有効です。

- [履歴保持] フィールド: フィールドの変更履歴を保持するかどうかと、適当な条件(スクリプトによる)を指定します。
- [読取り専用] フィールド: ユーザインタフェースを介してフィールドを変更できるかどうかと、読取り条件(スクリプトによる)を指定します。

 **注意:**

外部ツールを使ってデータをインポートする際には、この属性は適用されません。また、フィールドがマッピングレベルで「読取り専用」に定義されていない場合に限り、インポートモジュールでもこの属性は考慮されません。逆に、インポートスクリプトがソースフィールドを読取り専用のターゲットフィールドにマップした場合、やはり読取り専用フィールドを変更することができます。

- [非表示] フィールドでは、選択されたレコードの詳細画面での表示方法を設定します。
 - [はい] : オブジェクトを非表示にします。
 - [いいえ] : オブジェクトを表示します。
 - [スクリプト] : 表示条件を指定するため、スクリプトがオブジェクトに関連付けられていることを意味します。

```
if [bDepartment] = 1 Then
RetVal = 1
Else
RetVal = 0
End If
```

選択されているオブジェクトが無関係の場合は表示されません。

- [フィルタ] フィールドは、このバージョンのAssetCenterでは使用されません。
- [書式] フィールド : フィールド値をデータベースに保存する前に自動的に書式化できます。

テキストフィールドには次の書式があります。

- [標準] : 入力した通りに保存します。
- [大文字] : 大文字に変換してから保存します。
- [小文字] : 小文字に変換してから保存します。
- [自動] : 先頭の文字を大文字に変換してから保存します。

数値フィールドには次の書式があります。

- [標準] : 正と負のすべての値を指定できます。
- [正数] : 負の値を指定できません。警告メッセージが表示されます。

 **注意:**

この属性を変更しても、データベース内の既存の値は変換されません。

- [必須] フィールドでは、必須フィールドにする条件を定義できます。

 注意:

フィールドを必須にすると、フィールドが常に表示されるわけではない場合（他のフィールドの値に応じて表示される場合など）に問題が発生することがあります。このフィールドを必須に設定する場合やスクリプトを記述する場合は、この点に注意してください。

- [デフォルト]フィールドではフィールドのデフォルト値を指定します。フィールドとリンクのデフォルト値は、次の値で構成されます。

 注意:

AssetCenterで作成した新しいレコードには、自動的にデフォルト値が適用されます。そのレコードを作成または変更したユーザは、デフォルト値を変更できます。

デフォルト値は、レコード作成時にのみ適用されます。

例えば、レコードAのフィールドxのデフォルト値がレコードBのフィールドyを参照している場合、フィールドyまたはレコードBを変更しても、変更後にレコードAを作成した場合でない限り、フィールドxの値は変わりません。

- 引用符 ("") で囲まれた定数値
- スクリプト関数が返す値
- 他のデータベースフィールドへの参照

例：

```
RetVal="BL"+AmCounter("納入",2)+AmDate()
```

- AmDate()は、レコードの作成日を表します。
- AmCounter("納入",2)は、1ずつ増分する「納入」カウンタの現在の値を2桁で表示することを表しています。

[ヘルプの本文] タブページでは、データベースの各オブジェクト固有のヘルプをカスタマイズできます。AssetCenterでこのヘルプを表示するには、[Shift+F1]キー（または[ヘルプ/フィールドのヘルプ]ショートカットメニュー）を使います。ヘルプは最大3つのセクションから構成され、デフォルトのセクションタイトルは「説明」、「例」、「注」です。これらのセクションのタイトルをカスタマイズするには、[フィールドのヘルプ]テーブル(amHelp)で、SQL名が「Comment」、「Sample」、「Warning」のリンクのラベルを変更します。



データベースのカスタマイズ画面のこのセクションに表示されるその他のフィールドは、情報の提供のみを目的としており、カスタマイズはできません。この画面でのオブジェクトの設定は、[オブジェクトの設定]ポップアップメニューを使って同じように実行できます。

フィールドとリンクのデフォルト値 - 追加情報

特殊フィールド:

[特殊文字列]および[BASICスクリプト]タイプの特殊フィールドのみが、標準フィールドのデフォルト値の計算に使用されます。

コメント(amComment)テーブルへのリンク:

このテーブルへのリンクに、デフォルト値を割り当てることはできません。

アクセス制限:

フィールドのデフォルト値は、アクセス制限に関係なく計算されます。そのため、デフォルト値を定義する場合は、すべてのユーザが表示できるフィールドとリンクのみを参照するように設定してください。

カウンタ:

フィールドのデフォルト値を定義するとき、カウンタを参照できます。

このフィールドを含むレコードを新しく作成するたびに、AssetCenterが新しいレコードに1単位だけ増分された数値を自動的に挿入します。

カウンタは、管理者が[管理/カウンタ]メニューを使って管理します。

フィールドのデフォルト値の式にカウンタを挿入するには、このメニューを使って事前にカウンタを作成しておく必要があります。カウンタ名にスペース、「\$」、「(」、「)」、「」の記号を使うことはできません。

必要な数だけカウンタを作成できます。

AssetCenterユーザのインタフェースには、カウンタ名は表示されません。

[新規作成]ボタンをクリックすると、直ちにカウンタが増分されます。[作成]ボタンをクリックしないでレコードの作成をキャンセルしても、カウンタの数値は減少しません。

カウンタの値は再調整できます。

カウンタの詳細画面に表示される値は、最後にカウンタを実行したときの数値です。



AmCounter(<カウンタ名>)の代わりにAmCounter(<カウンタ名>,[n])などの式をフィールドのデフォルト値に入力すると、カウンタの値はn桁で表示されます。

エラー:

デフォルト値を記述するときに犯しやすい間違いは、以下のとおりです。

実行エラー - タイプエラー

変数が、フィールドのデータ型と互換性がない場合があります。例えば、日付型のフィールドにAmLoginName()を定義する場合はこれに該当します。

フィールド'XXX'が'XXX'内に見つかりません

リンクを参照するには、各リンクを名前参照する"Link.Link.Field"フォーマットを使う必要があります。このフォーマットによって、リンクを直接たどれるようになります。

例えば、資産のデフォルトの責任者を設定する場合、コストセンタ管理者を"CostCenter.Supervisor"に置き換えます。

AssetCenterのユーザが資産のコストセンタのフィールドに値を入力するとすぐに、デフォルト値が使用され、データベースで管理者を検出できます。

フィールドとリンクのヘルプ

AssetCenterフィールドの状況依存ヘルプシステムでは、HTML言語のサブセットを使用しています。主にヒントの書式設定などに使われている数種類のタグを採用しています。ここでは、HTML言語の詳しい説明は省略し、AssetCenterで管理するHTMLタグについてのみ簡単に説明します。

注意:

ユーザが入力しなければならないHTMLタグの一覧は、次の表のとおりです。これらのタグは、オンラインヘルプに使用されている表記規則には従いません。

表 3.1. フィールドとリンクのヘルプが認識するHTMLタグ

HTMLタグ	説明
	このタグに続くテキストの表示に使用するフォントを定義します。次にフォントが変更されるまで、このフォントが適用されます。
	このタグに続くテキストの表示に使用するフォントの色を定義します。次にフォントの色が変更されるまで、この色が使用されます。
	フォントサイズを"n"レベル大きくします。次にフォントサイズが変更されるまで、このサイズが使用されます。
	フォントサイズを"n"レベル小さくします。次にフォントサイズが変更されるまで、このサイズが使用されます。
 	この2つのタグで囲んだテキストが太字で表示されます。

HTMLタグ	説明
<i> </i>	この2つのタグで囲んだテキストが斜体で表示されます。
	このタグは、箇条書きの開始を表します。テキストを改行し、テキストの先頭に行頭記号を挿入します。
<hr>	セクションの区切りを示す水平線を引きます。

HTML言語の詳細については、HTMLに関する書籍を参照してください。

予約文字：

HTML言語の予約文字は次の表のとおりです。これらの文字を入力しても、画面にはそのとおりには表示されません。希望の文字を表示するには、対応するタグを代わりに入力する必要があります。

表 3.2. 予約文字

予約文字	文字を表示するためのタグ
"<"	"<"
"&"	"&"
連続するスペース（空白文字）	" "

AssetCenterのカスタマイズ

ショートカットメニューの [オブジェクトの設定] コマンドを使用して、データベースのフィールドとリンクをカスタマイズすることができます。

[オブジェクトの設定] ショートカットメニューを表示するには、設定するフィールドに移動し、マウスの右ボタンをクリックします。

注意:

ショートカットメニューを使った場合、変更が記録されるのは、データベースを閉じて承認メッセージを確認するか、[管理 / データベース設定の保存] メニューを選択した場合です。

[ヘルプ] タブページで、フィールドまたはリンクの状況依存ヘルプを変更することもできます。

- [説明]：フィールドまたはリンクの内容を説明します。
- [例]：フィールドまたはリンクの入力例を示します。
- [注]：データ入力に関する注意事項、関連の自動処理機能などを示します。フィールドのヘルプシステムは、HTML言語のサブセットです。

画面のカスタマイズ

画面のカスタマイズ

- 1 カスタマイズする画面が属するテーブルを選択します。

- 2 テーブル画面（ [表示 / 画面] メニュー ）を表示します。
- 3 リストの中からカスタマイズする画面を選択します。

このタイプのオブジェクトでは、次の変更が可能です。

[全般] タブページでは、次の情報を指定できます。

- [名前] フィールドと [説明] フィールド

[リスト/詳細] タブページでは、次の情報を指定できます。

- 画面のタイトル
- リストのタイトル
- リストの列
- その他の列
- リスト/詳細の割合
- QBEフィールド
- システムフィルタ


ボタン

[ボタン] タブでは、画面上のボタンの作成、変更、削除、整理を実行できます。

ボタンは以下の任意のオブジェクトタイプに関連付けることができます。

- アクション
- 画面
- ビュー
- 書式
- レポート

ボタンを作成するには:

- 1  ボタンをクリックします。
- 2 タブ内のボタンのリストに行が追加されます。行内の各セルをクリックし、ボタンの次のプロパティを定義します。
 - 名前：ボタンの内部名。ボタンを固有の名前で識別できるようになります。
 - テキスト：ボタン上に表示されるテキスト
 - 説明：AssetCenterのグラフィカルインタフェースに表示されるボタンのラベル
 - 複数のレコードに適用：ボタンをクリックしたときに実行されるアクションを複数のレコードに適用できる場合に指定できます。
 - 選択の必要なし：レコードを選択しなくてもボタンをクリックしたときに実行されるアクションを開始できる場合に指定できます。
 - [関連アクション]：ボタンをクリックしたときに実行されるアクションを定義します。実行するアクションのSQL名を入力します。




<アクションタイプ> : <アクションまたはビューなどのSQL名>

このシンタックスでは、アクションタイプに以下の値を使用できます。

- **A** : アクション
 - **S** : 画面
 - **V** : ビュー
 - **F** : 書式
 - **R** : レポート
- 妥当性 : ボタンが表示/非表示であるか、またはスクリプトによって表示の条件を設定するかどうかを指定します。

ボタンを変更するには


- 1 ボタンに対応する行を選択します。
- 2 各セルをクリックしてボタンのプロパティを定義します。

ボタンが標準ボタンの場合、主機能が引き続き使用可能です (例えば、[複製] ボタンは常にレコードを複製します)。ただし、 ボタン、 ボタン、 ボタンは例外です。これらのボタンをオブジェクトに関連付けることは可能ですが、主機能は使用できなくなります。



関連オブジェクトは以下で関連付けられます。

- [新規作成] ボタンと [複製] ボタンの主機能の前
 - [作成] ボタン、[変更] ボタン、[作成/複製] ボタンの主機能の後
- 関連付けられたオブジェクトが正しく実行されなかった場合、ボタンの主機能がキャンセルされる場合があります。

ボタンを削除するには

- 1 [ボタン] タブ内のリストからボタンを選択します。
- 2  をクリックします。
- 3 [変更] をクリックします。

ボタンの順序を変更するには

詳細画面に表示されるボタンの順序を変更するには、 ボタンと  ボタンを使用します。

新規オブジェクトの作成

AssetCenter Database Administratorではデータベース用に新規オブジェクトを作成できます。



警告:

空のデータベースを使用するようお勧めします。本番データベースを変更する場合は、変更事項を保存した後にデータベースの検証と修復を実行します（[アクション/データベースの診断/修復]メニュー）。

作成方法

以下の手順は、新規オブジェクトの作成方法の一例です。ここでは最大オブジェクトであるテーブルの作成を例に挙げます。以下の手順を、それぞれ対応する節で説明します。

- テーブルを作成する
- テーブルのフィールド、リンク、インデックスを作成する
- テーブルの画面を作成する
- 必要に応じて、画面のアクション用ボタンを作成する
- 画面のページを作成する
- ページを画面に追加する
- 変更を保存する
- 保存できない場合、変更を伝達する

テーブルの作成

新規テーブルを作成するには、

- [データベース/テーブルの追加]メニューを選択します。
- 作成用のウィンドウが表示されます。
- このウィンドウでテーブルに関連する標準フィールドに値を入力します。
 - [SQL名]フィールドに、新規テーブルを識別するための固有の名前を指定します。この名前はBasicスクリプト内でも参照されます。
 - [ラベル]フィールドに、AssetCenterで表示されるテーブル名を入力します。
 - [説明]フィールド
 - [主キー]フィールドに、テーブルの主キーとして使用されるフィールドのSQL名を入力します。
 - 任意管理項目を新規テーブルに関連付ける場合は、[任意管理項目の追加]オプションを選択します。AssetCenter Database Administratorは、任意管理項目の処理に必要なテーブルを自動的に追加作成します。
- [作成]をクリックすると、AssetCenterはテーブルと主キー用のフィールドを作成します。この時点でテーブルのフィールドを編集できます。
 - ▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「テーブルの説明」の節。

フィールド、リンク、インデックスの作成

フィールドを作成するには、

- 1 [データベース/フィールドの追加]メニューを選択します。
- 2 作成用のウィンドウが表示されます。
- 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名]フィールド
 - [ラベル]フィールド
 - [説明]フィールド
 - [タイプ]フィールド
- 4 インデックスを作成する場合は、[このフィールドのインデックスを作成]オプションを選択します。

フィールドを作成した後は、フィールドのサイズやフォーマットが変更できなくなります。

注意:

フィールドのタイプに関する注意事項

- [カスタムリストデータ]タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

自由入力のテキスト

入力されたテキスト([フォーマット]フィールド)は、リストデータの詳細の[識別子]フィールドに対応します。

- [システムリストデータ]タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

未承認|0|承認済|1|却下済|2

- [期間]タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

%Y|M|D|H|N|S

- Y、M、D、H、N、Sは、それぞれ年、月、日、時間、分、秒を定義します。
- l(long)は、期間の単位を完全表示するかどうかを指定します。
- dは、期間をデフォルト値として定義します。

▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「フィールドの説明」の節。

リンクを作成するには、

- 1 [データベース/リンクの追加]メニューを選択します。
- 2 作成用のウィンドウが表示されます。
- 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [リンクタイプ]フィールド

- ソーステーブル用には、以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名]フィールド
 - [ラベル]フィールド
 - [説明]フィールド
 - ターゲットテーブル用には、以下のフィールドに値を入力します。
 - [テーブル]フィールド。ターゲットテーブルを指定します。
 - [SQL名]フィールド
 - [ラベル]フィールド
 - [説明]フィールド
- 4 インデックスを作成する場合は、[このリンクのインデックスを作成]オプションを選択します。
- ▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「リンクの説明」の節。

 注意:

リンクのタイプ

- 「1-N」のリンクタイプ：Normal、Define、Own、OwnCopy、Overflow
- リンク「1-1」のリンクタイプ：Normal、OwnCopy1、Copy1、Own1、NeutDef1
- リンク「N-N」のリンクタイプ：RelNN、NNCopy、CopyNN

インデックスを作成するには、

- 1 [データベース/インデックスの追加]メニューを選択します。
- 2 各オブジェクトのプロパティに値を入力します。プロパティに関しては「オブジェクトのカスタマイズ」の節を参照してください。

階層構造のあるテーブルを作成する

階層テーブルを作成するとは、テーブル内に親リンクを作成することを意味します。

親リンクは、同じテーブル内の従属リンクに対応します。

親リンクを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース/親リンクの追加]メニューを選択します。
- 2 作成用のウィンドウが表示されます。
- 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名]フィールド
 - [ラベル]フィールド
 - [説明]フィールド
- 4 以下のシンタックスに従って、[階層]フィールドに値を入力します。

<親リンクのID>,<階層用を使用されるフィールドの名前>

例えば、[製品]テーブルの場合、親リンクの[階層]フィールドには、以下のように値が入力されているはずですが。

ParentId,InternalRef

上記の操作が実行されると、**FullName**フィールドが作成されます。これは、テーブル内の固有の識別子です。

▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「インデックスの説明」の節。

画面の作成


画面には、テーブルのオブジェクト内に格納された情報がグラフィカルに表示されます。AssetCenterでメニューやビューを選択したり、ツールバーのアイコンをクリックしたりする時に表示される画面が、画面の例にあたります。画面には複数のページがあり、AssetCenterのインタフェースではタブによって再編成されています。

注意:

AssetCenterに付属している標準の画面セットは、アプリケーションの機能をサポートしています。一部の画面パラメータは変更することができません（画面に関連付けられたドメインや画面セットなど）。

通常、デフォルトで、各テーブルが完全/単純画面に関連付けられています。

画面を作成するには、

- 1 左側の枠内で、新規画面を作成するテーブルを選択します。
- 2 [表示 / 画面]メニューを選択するか、またはツールバーの  ボタンをクリックします。
- 3 [データベース / 画面の追加]メニューを選択するか、または[新規作成]をクリックします。
- 4 [全般]タブの以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名]：画面のSQL名。この名前により、以下が可能になります。
 - 異なる画面セットに関連付けられた、同じ性質を持つ画面間にリンクを作成する。
 - 画面のグループを一意に識別し、それらをスクリプトまたはクエリで参照する。
 - [ラベル]：画面のラベル。
 - [ドメイン]：この画面の機能ドメイン。入力する機能ドメインがデータベース内に存在する場合（AssetCenterの[管理 / 機能ドメイン]メニューで作成できます）、自動的にリンクが作成され、該当機能ドメインのナビゲーションバーから画面に直接アクセスできるようになります。

- [画面セット]: 画面に関連付けられた画面セット。AssetCenterはこのフィールドの値を使用し、AssetCenterユーザに関連付けられた画面セットの優先度順に基づいて表示する画面を指定します。

 注意:

管理者権限を持つユーザの場合、これは、[管理/データベースオプション]メニュー、[画面セット]セクション、[デフォルトの順番]オプションで定義された順番です。

その他のユーザの場合、これはWindowsまたはWebクライアント上で、ユーザプロファイルの[全般]タブ、[画面セット]フィールドで定義された順番です。このフィールドに値が入力されていない場合、[管理/データベースオプション]メニュー、[画面セット]セクション、[デフォルトの順番]オプションで定義された順番が使用されます。

- 5 [リスト/詳細]タブの以下のフィールドに値を入力します。
 - [リストのタイトル]: 画面のリスト内 (AssetCenterの[管理/画面一覧]) に表示されるページのタイトルを指定します。
 - [画面のタイトル]: AssetCenterに表示されるウィンドウのタイトルを指定します。記述文字列がこのタイトルに追加されます。
 - [リストの列]: このフィールドでは、リストに表示される列を定義できます。シンタックスは以下のとおりです。

- [リスト/詳細の割合]: 詳細とリスト間の割合。
- [QBEフィールド]: このフィールドに以下に対する値を入力します。
 - Windowsクライアント: 画面が表示される ([QBEフィールド]フィールドからの情報を使ってオンザフライで生成される) 前にクエリウィザードを表示させます。
 - Webクライアント: 画面が表示される ([QBEフィールド]フィールドからの情報を使ってオンザフライで生成される) 前にフィルタを表示させます。

このフィールドに値を入力するには、クエリウィザードまたはフィルタで表示するフィールドの一覧を指定します。

フィールドをコンマで区切ります。

フィールドが下から上に表示されます。

作業指示テーブル (amWorkOrder) の例: WONo,seStatus,Title,dtResolLimit

 注意:

Windowsクライアントでは、ユーザが、[クエリウィザードを有効にする]オプション ([編集/オプション/ナビゲーション]メニュー) でクエリウィザードを使用するかどうかを選択します。


6 [作成] をクリックします。

これで新しい画面の空のシェルを作成したことになります。この画面にフィールド、リンクやアクション用ボタンを含んだページを追加します。

アクション用ボタンの作成

AssetCenter Database Administratorでは、画面のボタンを作成することができます。ボタンはアクションの実行、画面の表示、レポートや書式の印刷、ビューのオープンをトリガします。

ボタンを作成するには、

- 1 ボタンの追加先の画面を選択します。
- 2 画面の [ボタン] タブを選択します。
- 3  をクリックします。タブ内のボタンのリストに、新しいアイテムが作成されます。
- 4 各プロパティの値をクリックして値を直接編集できます。
 - [名前] : ボタンのSQL名。この名前により、詳細の識別が可能になり、Basicスクリプトやクエリ内で参照できるようになります。
 - [テキスト] : ボタンのテキストを入力します。
 - [説明] : AssetCenterのインタフェースに表示されるボタンのラベル。ボタン上にマウスポインタを置くと表示されます。
 - [複数のレコードに適用] : ボタンをクリックしたときに実行されるアクションを複数のレコードに適用できる場合に指定できます。
 - [編集モード] : アイテムの保存中にボタンを表示するかどうかを指定します。
 - [選択の必要なし] : レコードを選択しなくてもボタンをクリックしたときに実行されるアクションを開始できる場合に指定できます。
 - [関連アクション] : ボタンをクリックしたときに実行されるアクションを定義します。実行するアクションのSQL名を入力します。




<アクションタイプ> : <アクションまたはビューなどのSQL名>

このシンタックスでは、アクションタイプに以下の値を使用できます。

- **A** : アクション
 - **S** : 画面
 - **V** : ビュー
 - **F** : 書式
 - **R** : レポート
 - [妥当性] : ボタンの表示パラメータを指定します (「はい」、 「いいえ」、または 「スクリプト」) 。
- 5 [変更] をクリックして変更事項を確定します。






ページの作成

AssetCenterでは、ページはフィールドを含むタブとして表示されています。ページを作成するには、

- 1 左側の枠内で、新規ページを作成するテーブルを選択します。
- 2 [表示 / ページ] を選択するか、またはツールバーの  ボタンをクリックします。
- 3 [データベース / ページの追加] メニューを選択するか、または [新規作成] をクリックします。
- 4 [全般] タブの以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名] : ページのSQL名。この名前により、ページを一意に識別し、スクリプトやクエリ内で参照できるようになります。
 - [ラベル] : ページの名前。これはAssetCenterのインタフェースにタブ名として表示されます。
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 ページの詳細の [内容] タブをクリックします。作成するページに表示するフィールドを選択します。以下の方法で選択します。
 - 左のリスト ([フィールドとリンク]) で、ページに追加したいフィールドまたはリンクを選択し、  ボタンをクリックして選択したフィールドまたはリンクを右側のリスト ([フィールドのリスト]) に移動します。
次の方法でも、同様の操作を行うことができます。
 - 左側のリスト ([フィールドとリンク]) でフィールドをダブルクリックします。
 - 左側のリストの上のフィールドに、そのフィールドまたはリンクのSQL名を入力し、このリストの横の  ボタンをクリックします。

注意:

このような方法で情報を入力することにより、オブジェクトに関連付けられたコントロールのタイプを指定したり、キーワードを使用してオブジェクトの動作オプションを指定することができます。これらのキーワードについては本書で後述します。

-
- ページからフィールドを削除する場合は、右側のリストでフィールドを選択し、  ボタンをクリックします。右側のリストでフィールドをダブルクリックすると、同様の操作を実行できます。
 - このページのレイアウトとページ上のフィールドのグラフィカルな構成は、AssetCenterによりデフォルトで自動設定されますが、フィールドをページに表示する順番は、左側の枠で 、、、および  ボタンを使用して指定することができます。

 **注意:**

ページの形（垂直および水平のセクション区切り）を制御する機能もあります。この機能はページ上のフィールドリストに追加するキーワードとして提供されます。これらの機能については本書で後述します。

7 [変更] をクリックします。

オブジェクトの動作オプションを制御する

[フィールドとリンク] リストの上のフィールドを使用してページに直接データベースオブジェクトを追加する場合、制御キーワードを使用して以下のことが行えます。

- フィールドの入力に使用するグラフィカルなコントロールのタイプを定義する。
- コントロールのプロパティと動作オプションを定義する。

正しいシンタックスは次のとおりです。

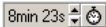
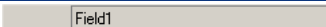
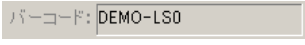
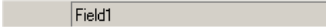
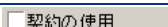
```
[<コントロールのタイプ>]<オブジェクトのSQL名>[[<2番目のオブジェクトのSQL名>][<コントロールのプロパティ>="<値>"*]
```

 **注意:**

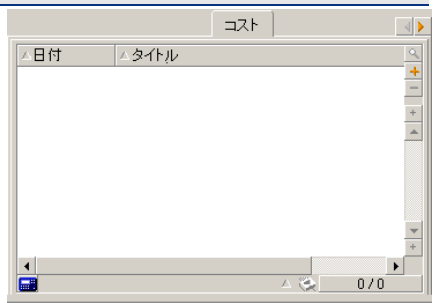
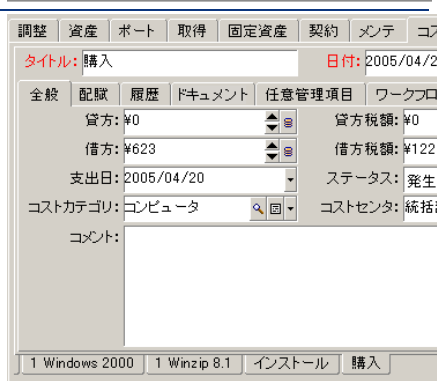
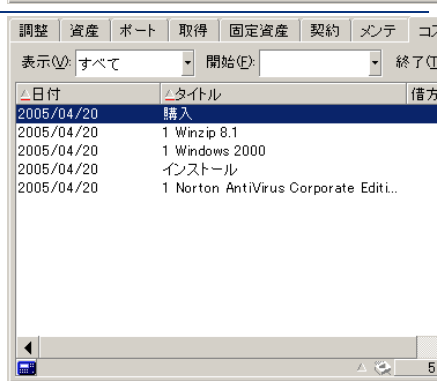

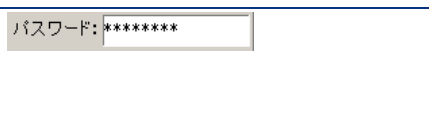
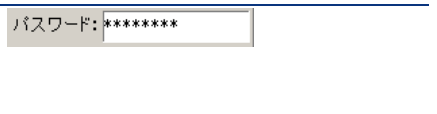
2番目のオブジェクトのSQL名は特定のプロパティにのみ使用されます。


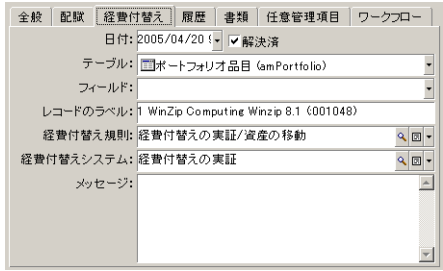
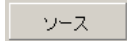
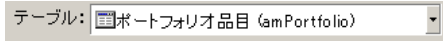

グラフィックコントロールのタイプ

次のテーブルで、使用可能なコントロールのタイプを説明します。

コントロールのタイプ	説明	表示例
TimerControl	期間入力コントロール。デフォルトの表示ではこのフィールドは読取り専用であり、タイマーが開始しています。このタイプのコントロールに期間を入力するには、フィールドの右側にあるアイコンをクリックします。	
Label	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルなし。	
CaptionedLabel	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルあり。	
MultilineLabel	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルあり、複数行。	
Checkbox	チェックボックス、フィールドラベルあり。	


コントロールのタイプ	説明	表示例
ComboList	システムリストデータ表示コントロール（閉じた、事前定義された値リスト）。	
Icon	アイコンまたは画像表示コントロール。サイズは標準のコントロールの高さに制限されます。	
ScrollablePicture	画像表示コントロール。画像が大きすぎる場合、スクロールバーが表示されます。	例なし
Picture	画像表示コントロール。	
ColorCombo	カラー選択コントロール。	
ComboDate	日付表示コントロール。	
TimeSpanEdit	期間入力コントロール。	
MultiLineEdit	複数行テキスト編集コントロール。	
Edit	標準のテキストデータ入力コントロール。	
FileEdit	ファイル選択コントロール。	
NumberEdit	数値入力コントロール。	
MonetaryEdit	金額フィールド入力コントロール。	
ItemizedList	リストデータ（カスタマイズ可能な値リスト）表示コントロールを開きます。	


コントロールのタイプ	説明	表示例
LinkList	リンク済みレコードリスト表示コントロール。	
Notebook	タブ設定のリンク済みレコード表示コントロール。	
OneToManyLinkEdit	リンク済みレコード表示コントロール。ユーザの選択に応じてリスト表示またはタブ表示を有効にします。	
LinkEdit	リスト内のレコード用選択コントロール。	
ReversePasswordEdit	パスワード入力コントロール。暗号化を元に戻す方法により、AssetCenterが外部システムに対して自分を認証できるようにします。	
PasswordEdit	パスワード入力コントロール。このパスワードは元に戻せません。AssetCenterのみがこのタイプのパスワードを認証できます。	

コントロールのタイプ	説明	表示例
QueryCalc	クエリ結果表示コントロール。コントロールの横の電卓の形をしたアイコンを押すと、クエリ結果を再計算できます。	
DistantDet	リモートの詳細画面表示コントロール（テーブル以外）。このタイプのコントロールは、レコードの詳細画面を別のレコード内で表示することができます。	
ExternalRef	ボタン表示コントロールでは、タイプ付きリンク（状況依存リンク）により指定したレコードの詳細画面を表示することができます。	
TableChoiceList	データベースのテーブル用の選択コントロール。	
OneToOneLinkEdit	「1-1」リンク選択コントロール。	


グラフィカルコントロールのプロパティ

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
UseLabel	プロパティが「1」に設定されている場合：コントロールの右側のフィールドラベルを表示します。プロパティが「0」に設定されている場合：フィールドラベルを表示しません。	すべて

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
Caption	<p>このプロパティの動作は、コントロールのタイプに依存します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ OneToManyLinkEdit、LinkEdit、LinkListコントロールの場合：このプロパティはリンク済みレコードの選択ウィンドウのタイトルを定義します。 ■ Label、CaptionedLabel、MultilineLabelコントロールの場合：このプロパティはテーブルのフィールドに含まれる値のラベルを表示します。 ■ QueryCalcコントロールの場合：このプロパティは計算した値を説明するラベルを定義します。 	Label, CaptionedLabel, MultilineLabel, QueryCalc, LinkList, OneToManyLinkEdit, LinkEdit
Query	<p> アイコンをクリックするとAQLクエリが実行されます。</p>	QueryCalc
ListConfig	<p>このプロパティはリスト内の列を定義します。次のフォーマットが使用されます。</p> <p>ListConfig="<オブジェクトのSQL名>,<列のサイズ>[,] * 例</p> <p>ListConfig="Name,40,seType,30"</p>	LinkList, OneToManyLinkEdit

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
WhereCond	<p>このプロパティはAQLクエリのWhere句を含みます。これによりドロップダウンリストのレコードリストにフィルタをかけることができます。</p> <p>例えば、部署と従業員リストの場合、責任者（マネージャ）リンクは、次のWhereCondプロパティを持つコントロールに関連付けられます。</p> <p>WhereCond="bDepartment=0"</p> <p>こうすると、部署はリストに表示されず、責任者の値を選択するときに使用されることはありません。</p>	LinkList, LinkEdit
DistantDet	<ul style="list-style-type: none"> ■ OneToManyLinkEditおよびLinkEditコントロールのリンク済みレコードの詳細（アイコン）を閲覧するときに表示される詳細画面のSQL名。 ■ DistantDetコントロールで表示される遠隔の詳細画面のSQL名。 <p>注意:</p> <p>この詳細画面のフィルタはWhereCondプロパティと同じように適用されます。</p>	OneToManyLinkEdit, DistantDet, LinkEdit

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
AddMode	<p>値「0」または「1」。☑ボタンを使用してレコードをリストに追加する場合、このプロパティでコントロールのデフォルトユーザモードを定義することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「1」に設定するとコントロールは作成モードになり、選択してリストに追加するレコードを前もって作成することができます。 ■ プロパティを「0」に設定するとコントロールは選択モードのみになり、レコードを作成するには [新規] ボタンを使用しなくてはなりません。 	OneToManyLinkEdit
OnZoom	このプロパティは☑ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit
OnAddLink	このプロパティは☑ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit
OnRemoveLink	このプロパティは☐ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit
Mode	<p>このプロパティでは次のタイプのコントロールのデフォルトの表示モードを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「1」に設定すると、コントロールはデフォルトでリストモードで表示されます。 ■ プロパティを「2」に設定すると、コントロールはデフォルトでタブモードで表示されます。 	OneToManyLinkEdit

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
DescString	<p>このプロパティでは、( ボタンをクリックして) 選択したレコードの詳細を表すウィンドウの説明文字列を入力する必要があります。</p> <p>このプロパティに使用されるフォーマットは説明文字列のフォーマットとまったく同じです。</p> <p>注意:</p> <p>説明文字列の詳細については、マニュアル『管理』の「テーブルのレコード名の表記文字列」の節を参照してください。</p>	LinkEdit
ReadOnlyDetail	<p>このプロパティでは選択したウィンドウの詳細ウィンドウの表示モードを定義することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「1」に設定すると、詳細画面は読み取り専用モードで開きます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、作業中の詳細画面を変更することができます。 	LinkEdit
AllowNone	<p>このプロパティでは選択リストの [テーブルなし] 値の選択を許可または拒否することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「0」に設定すると、この値は選択できません。 ■ プロパティを「1」に設定すると、この値を選択できます。 	TableChoiceList

プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
AllowNoMainField	<p>このプロパティでは関係（中間）テーブル（amRelxxxなど）を表示することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「0」に設定すると、関係テーブルは表示されません。 ■ プロパティを「1」に設定すると、関係テーブルは表示されます。 	TableChoiceList
OnlyFeature	<p>このプロパティでは任意管理項目の値（amFVxxxなど）に対応するテーブルを持つテーブルを表示（または非表示）することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、任意管理項目の値に対応するテーブルを持つテーブルのみが表示されます。 	TableChoiceList
NoFeature	<p>このプロパティでは選択リストで任意管理項目の値テーブルを表示することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、任意管理項目の値テーブルは表示されません。 	TableChoiceList






プロパティ	説明	プロパティを使用するコントロール
HideSystem	<p>このプロパティではテーブルのリスト表示をユーザーライセンスに含まれるテーブルに制限することができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、ライセンスで許可されたテーブルのみが表示されます。 	TableChoiceList

ページのレイアウト

ユーザがページに追加するオブジェクト（フィールドやリンク）では、デフォルトで1列に順番に表示されます。このデフォルト表示方法を変更するために縦や横の区切り線を定義することも可能です。区切り線は以下の内部変数で定義できます。

- **HSplitControl**：横の区切り線
- **VSplitControl**：縦の区切り線

区切り線を追加するには、

- 1 ページの詳細画面の [内容] タブページを開きます。
- 2 [フィールドとリンク] リストの上にあるフィールドに、上記の2つの内部変数のうちの1つを入力します。
- 3  をクリックします。
- 4 区切り線は右のフィールドのリスト内へ移されます。これらのフィールドをページに表示する順番は、、、、および  ボタンを使って定義します。

以下の規則がページの表示に適用されます。

- 2つの**HSplitControl**変数間にあるオブジェクトは全て同じ横ブロックに含まれます（1行または複数行）。
- **VSplitControl**変数は、横のブロック内のオブジェクトを列に分割します。

例えば、AssetCenterでデフォルトで表示される、従業員の詳細の [全般] タブページの内容は、以下のように定義されます。

```
HSplitControl_0
HSplitControl_1_Adresse
HSplitControl_2
Location
HSplitControl_2
VSplitControl_2
```

Phone
MobilePhone
VSplitControl_2
Fax
HomePhone
HSplitControl_2
EMail
Field1
Field2
HSplitControl_1
HSplitControl_0
VSplitControl_0
IDNo
dHire
dLeave
VSplitControl_0
BarCode
Field3
HSplitControl_0
MultilineEdit-Comment

アンダスコア（下線）は、変数間の帰属関係を定義します。

画面にページを追加する

ページを画面に追加するには、

- 1 ページの追加先の画面を選択します。
- 2 画面の [ページ] タブを選択します。ここで、画面に追加するページを選択します。
 - 左側のリスト（使用可能ページ）内で画面に追加するページを選択し、▶ ボタンをクリックして右側のリスト（詳細ページ）に移します。左側のリストでページをダブルクリックして右側に移すこともできます。
ページのリンクを選択することも可能です。これは、別のテーブルにリンクしているページを表示することを意味します。ページリンクを選択するには、[使用可能ページ] の上にあるドロップダウンリストからリンクを選択します。このリストには使用可能な1対1のリンクすべてが表示されます。
 - 画面からページを削除する場合は、右側のリストでページを選択し、◀ ボタンをクリックします。左側のリストでページをダブルクリックすると、同様の操作を実行できます。
 - タブの表示順を指定する場合は、右側の枠で▲、▼、▼、および▶ ボタンを使って、表示する順番にタブを並べ替えます。リスト内の最初のページは最初に表示されるタブで、最後のページは最後に表示されるタブです。

サポートする他の言語へのカスタマイズの伝達

データベースに追加されたオブジェクトは、変更時にAssetCenter Database Administratorで選択されていた言語で使用できます。

以下のオブジェクトは、サポートする言語のそれぞれに対して再作成する必要があります。

- 画面
- ページ

ヒント:

このためには、サポートする言語を1つずつ選択し（AssetCenter Database Administratorのツールバーの右側のリストを使用）、最初の言語のときと同じ方法でオブジェクトを作成します。

以下のオブジェクトは全言語向けに作成されますが、ラベルと説明は翻訳する必要があります。


- テーブル
- フィールド
- リンク
- インデックス

特定の言語で追加されたオブジェクトのラベルと説明を翻訳するには:

- 1 追加でサポートする言語を1つずつ選択します（リストはAssetCenter Database Administratorのツールバーの右側にあります）。
- 2 [アクション/説明を更新]を選択します。
- 3 各表示オブジェクトのラベルと説明を翻訳します。
- 4 [変更]をクリックして変更を確定します。
- 5 更新ウィンドウを閉じます。

変更の保存

変更を保存するには、

- 1 [ファイル/データベース構造の更新]を選択するか、またはをクリックします。
- 2 ウィザード画面に表示される指示に従います。

変更を確認する

変更を確認するには、AssetCenterを起動し、カスタマイズしたデータベースに接続する必要があります。上記の例では新規テーブルを作成したので、このテーブルの詳細にアクセスします。

- 1 [管理/画面一覧]メニューを選択します。

- 2 画面に表示されるリストから画面を検索し、[OK]をクリックすると、新しい画面が表示されます。
- 3 新規テーブルのビューを作成することもできます。[ツール/ビュー/現在のウィンドウから作成]メニューを選択します。
- 4 [名前]フィールドにビューの名前を入力します。この名前はナビゲーションバーに表示されます。
- 5 機能[ドメイン]を選択します。ビューの[名前]は、ナビゲーションバーのこの機能ドメイン下に表示されます。
- 6 これで新規の画面に直接アクセスできるようになりました。

重要な注意事項

AssetCenterでは、全オブジェクト（特にアクション、ビューと画面）がSQL名で識別されています。オブジェクトをメニューまたはナビゲーションバーから開く際に、AssetCenterはSQL名を使用します。複数のオブジェクト、例えばビューと画面などに同じSQL名が付いている場合、AssetCenterはオブジェクトを以下の順番で開きます。

- ビュー
- 画面

例えば、[部署と従業員]（SQL名：amEmplDept）テーブルに新規の画面を作成し、「amEmplDept」というSQL名のビューをこの画面に関連付けるとします。[ポートフォリオ/部署と従業員]メニューを選択する場合、またはナビゲーションバーで[従業員のリスト]リンクをクリックする場合、表示されるのは新規の画面です。

画面セット

概要

画面セットを使用する理由

画面セットは、全ユーザに複雑なFull画面を提供するのではなく、個別ユーザそれぞれにカスタマイズした単純化した画面を提供するためAssetCenterで導入されました。

画面セットを使って同じ画面の異なるバージョンを作成できます。例えば、FullバージョンとSimpleバージョンを作成できます。

ユーザは、それぞれのユーザプロファイルによって適切な画面セットにアクセスします。例えば、あるユーザに対してSimple画面セットが選択されている場合、所定テーブルに対して画面表示されるときは常に、Simple画面が表示されます。

画面セットの動作方法

同じ画面の異なるバージョンは、同一SQL名を使用しながら異なる画面セットに関連付ける必要があります。

AssetCenterデータベースでは、画面セットにデフォルトの優先度順（データベースオプション）が設定されています。

各ユーザプロファイルでは、画面セットに対してその設定済のデータベースオプションを無効にする優先度順を定義できます。

画面セットの優先度順は、ユーザ権限、機能権限、ユーザプロファイルのアクセス制限によって変わります。

画面セットの実装方法

以下の表で、画面セットの実装とセットアップに必要な作業について説明します。

実行するアクション	使用
必要に応じて、管理者が見つからない [機能ドメイン] を (WindowsまたはWebクライアントで) 作成します。	機能ドメインを使用して、WindowsクライアントとWebクライアントのナビゲーションバーで画面をグループ化します。 例えば、「Screen」画面が「Domain」機能ドメインと関連付けられている場合、ナビゲーションバーにドメイン / 画面のツリー構造が表示されます。
管理者が既存の画面を変更するか、 (AssetCenter Database Administratorを使用して) 新しい画面を追加します。	データベースの各テーブルに対して、管理者が、個々のユーザのニーズに基づいて複数の異なる画面を定義できます。 デフォルトで、ほとんどのテーブルはFull/Simple画面によって定義されています。 例えば、以下の場合を想定します。 <ul style="list-style-type: none">■ 同じSQL名「Screen」を持つ2つの画面が画面セット「Set 1」と「Set 2」に関連付けられている。■ 画面セット「Set 1」がユーザプロファイルにより「User 1」に関連付けられている。■ 画面セット「Set 2」がユーザプロファイルにより「User 2」に関連付けられている。 WindowsクライアントまたはWebクライアントを使って同じことを実行すると、「User 1」は「Set 1」に関連付けられた画面を表示し、「User 2」は「Set 2」に関連付けられた画面を表示します。

実行するアクション

AssetCenterデータベース管理者が、(Windowsクライアントを使用して)デフォルトのデータベースオプションパラメータを設定します。

使用

[画面セット]セクションの[デフォルトの順番]オプションをデータベースオプションで設定できます。

このオプションは、優先度の一番高いものから始まる、使用画面セットのリストを定義します(「Full画面、Simple画面」など)。

このオプションは、以下のユーザタイプがテーブルの表示を要求するときに使用されます。

- [画面セット] (ScreenSets) フィールドが空のプロファイルに関連付けられたユーザ
- [管理者権限] (bAdminRight) オプションが選択されているプロファイルに関連付けられたユーザ

これらのユーザがテーブルの表示を要求するときには、AssetCenterがオプションによって指定された順番で画面セットの識別子を取り込み、この画面セットに関連付けられた画面が含まれていないか調べるためテーブルを検索します。

画面が見つかると、AssetCenterがそれを使ってテーブルを表示します。

このデフォルト動作は、そのプロファイルに関連付けられた機能権限によって無効にできません。所定画面へのアクセスを機能権限によって拒否することができます。

AssetCenterデータベース管理者が、(WindowsまたはWebクライアントを使用して)機能権限を定義します。

機能権限を使用して、メニューバー、ナビゲーションバー、ウィザードからユーザが画面とページへアクセスすることを許可します。

機能権限はユーザに、従業員->ユーザプロファイル->機能権限->機能ドメイン->画面セット->画面->ページパスから画面とページにアクセスすることを許可します。

実行するアクション

AssetCenterデータベース管理者が、(WindowsまたはWebクライアントを使用して)ユーザプロフィールを定義します。

使用

ユーザプロフィールを使用して、AssetCenterデータベースのユーザアクセス規則を定義します。

画面の結果は、以下の要素によって異なります。

- [全般] タブ、[画面セット] フィールド (ScreenSets) :

プロフィールに関連付けられたユーザがテーブルの表示を要求するときに、このフィールドが使用されます。

AssetCenterが[画面セット] フィールドによって指定された順番で画面セットの識別子を取り込み、この画面セットに関連付けられた画面が含まれていないか調べるためテーブルを検索します。

画面が見つかり、AssetCenterがそれを使ってテーブルを表示します。

このデフォルト動作は、そのプロフィールに関連付けられた機能権限によって無効にできます。所定画面へのアクセスを機能権限によって拒否することができます。

- [ユーザ権限] タブ、[ユーザ権限] リンク (UserRights) : テーブルへのアクセス権限 (作成、削除、読み取り、作成中の入力、更新中の入力)
- [ユーザ権限] タブ、[ユーザ権限] リンク (UserRights) : 画面とページへのアクセス権限

画面セットにアクセスする操作

画面セットは、以下の操作で使用されます。

- テーブルを表示するメニュー ([ポートフォリオ / 部署と従業員] など)
- テーブルを表示するWindowsおよびWebクライアントナビゲーションバーのリンク ([コア / 従業員] など)
- AmOpenScreen APIとAmOpenScreenEx APIによって画面を表示するウィザード

AssetCenterデータベースのデフォルト設定

AssetCenterデータベースのデフォルト構造では、ほとんどのテーブルが以下によって定義されます。

- Full画面セットに関連付けられたFull画面
- Simple画面セットに関連付けられたSimple画面

[画面セット / デフォルトの順番] データベースオプションのデフォルト値は「Custom,MigratedSys,Full,Simple」です。

ニーズに合わせてカスタマイズされたCustom画面セットも作成できます。

実用的な事例1：画面セットの使用方法

プレゼンテーション

この実用的な事例では、AssetCenterの異なるユーザに対して異なる画面セットを設定する方法について取り上げます。

必要条件

事例を開始する前に、以下のアプリケーションとコンポーネントをインストールする必要があります。

- MSDE
- AssetCenter
- デモ用データベース
- AssetCenter Database Administrator

シナリオ

以下のシナリオを見てみましょう。

- AssetCenterデータベース管理者は、レコードを表示する際、全テーブルのすべてのフィールドとリンクにアクセスする必要があります。
- 人材管理アドバイザーには、部署と従業員（**amEmplDept**）テーブルを更新する責任があります。そのためには、アドバイザーは、テーブルのすべてのフィールドとリンクにアクセスする必要があります。
- 人事課長に必要なのは、従業員情報の管理職用の要約へのアクセスのみです。

手順

機能ドメインCP1 - Human Resourcesを作成する

部署と従業員テーブルで作成する画面が、新しく作成した機能ドメインにリンクされます。

- a AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- b ユーザとしてAdminを選択してデモ用データベースに接続します。

フィールド	値
ログイン	Admin
パスワード	パスワードは空です

- c 機能ドメインを表示します（[管理/機能ドメイン]メニュー）。
- d 以下の表に示すようにフィールドとリンクを使用してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	CP1-Human Resources
SQL名 (SQLName)	CP1_Human_Resources

- e AssetCenterを終了します。

画面を作成する

ユーザは、さまざまな画面を使って、部署と従業員テーブルのカスタマイズされたビューを表示することができます。

- a AssetCenter Database Administratorを起動します。
- b ユーザとしてAdminを選択してデモ用データベースに接続します。
- c 部署と従業員 (amEmplDept) テーブルの詳細を表示します。
- d 画面のリストを表示します ([表示 / 画面] メニュー)。
- e 以下の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力して画面を作成します ([新規作成] ボタン)。

フィールド	値
[全般] タブ	
SQL名	CP1_amEmplDept
ドメイン	CP1_Human_Resources
画面セット	CP1-Simplified
[リスト / 詳細] タブ	
リストの列	Name,20,FirstName,20,Title,30
[ページ] タブ	
詳細ページリスト	ページsysamEmplDeptを追加

フィールド	値
[全般] タブ	
SQL名	CP1_amEmplDept
ドメイン	CP1_Human_Resources
画面セット	CP1-Complete
[リスト / 詳細] タブ	
リストの列	Name,20,FirstName,20,Title,30
[ページ] タブ	
詳細ページリスト	使用可能ページリストのすべてのページを追加します。

- f データベース構造更新ウィザードを起動し、必要な情報を入力します ([ファイル / データベース構造の更新] メニュー)。
- g AssetCenter Database Administratorを終了します。

データベースオプションのパラメータを入力する

ここで設定するオプションを使って、管理者が画面セットをどの順番で使用できるようにするかを定義します。

- a AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- b ユーザとしてAdminを選択してデモ用データベースに接続します。
- c [管理/データベースオプション]メニューからデータベースオプションを表示します。
- d 以下のオプションに値を入力します([現在の値]列)。

セクション	オプション	値
画面セット	デフォルトの順番	CP1-Complete,CP1-Simplified,Custom,MigratedSys,Full,Simple

- e すべての画面を閉じます。
- f すべてのデータベースオプションが適用されるようにAdminとしてデータベースに再接続します([ファイル/データベースに接続]メニュー)。

機能権限CP1-Human Resourcesを作成する

作成する機能権限は、人材管理アドバイザと人事課長のユーザプロファイルに関連付けられます。

- a 機能権限を表示します([管理/機能権限]メニュー)。
- b 以下の表に示すようにフィールドとリンクを使用してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	CP1-Human Resources
SQL名 (SQLName)	CP1_Human_Resources
デフォルトで付与 (bDefault)	このオプションをチェック
アイテムのリスト	全部のアイテムの [親の値] オプションがオンになっていることを確認します。

- c すべての画面を閉じます。

ユーザ権限CP1-Human Resourcesを作成する

作成するユーザ権限は、人材管理アドバイザと人事課長のユーザプロファイルに関連付けられます。

- a ユーザ権限を表示します([管理/ユーザ権限]メニュー)。
- b 以下の表に示すようにフィールドとリンクを使用してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	CP1-Human Resources
[権限] タブ	

フィールドまたはリンク	値
オブジェクトリスト	
すべてのオブジェクトを選択	
読取り	このオプションを選択
作成中に入力	このオプションを選択
更新	このオプションを選択
作成	このオプションを選択
削除	このオプションを選択

- c すべての画面を閉じます。

CP1 - Human Resources AdvisorユーザプロファイルとCP1 - Human Resources Managerユーザプロファイルを作成する

アクセスプロファイルが人材管理アドバイザと人事課長に割り当てられます。

- ユーザプロファイルを表示します（ [管理 / ユーザプロファイル] メニュー）。
- 以下の表に示すようにフィールドとリンクにデータを入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
説明（ Description ）	CP1 - Human Resources Advisor
[全般] タブ	
画面セット（ ScreenSets ）	CP1-Complete, CP1-Simplified
[ユーザ権限] タブ	
ユーザ権限（ UserRights ）	ユーザ権限CP1-Human Resourcesを追加します。
[機能権限] タブ	
機能権限（ FuncRights ）	機能権限CP1-Human Resourcesを追加します。

フィールドまたはリンク	値
説明（ Description ）	CP1 - Human Resources Manager
[全般] タブ	
画面セット（ ScreenSets ）	CP1-Simplified, CP1-Complete
[ユーザ権限] タブ	
ユーザ権限（ UserRights ）	ユーザ権限CP1-Human Resourcesを追加します。
[機能権限] タブ	
機能権限（ FuncRights ）	機能権限CP1-Human Resourcesを追加します。

- c すべての画面を閉じます。

従業員CP1-SmithとCP1-Williamsを作成する

これらの従業員はAssetCenterにアクセスします。

- 従業員を表示します（ [ポートフォリオ / 部署と従業員] メニュー）。
- 以下の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓	CP1-Smith
役職	人材管理アドバイザー
[プロファイル] タブ	
アクセスタイプ	不特定
プロファイル	CP1-Human Resources Advisor
ユーザ名	smith
パスワード	このフィールドは空のままにします。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓	CP1-Williams
役職	人事課長
[プロファイル] タブ	
アクセスタイプ	不特定
プロファイル	CP1-Human Resources Manager
ユーザ名	williams
パスワード	このフィールドは空のままにします。

- c すべての画面を閉じます。

ユーザAdminの結果を表示する

- 1 WindowsおよびWebクライアントナビゲーションバーを表示します（[ウィンドウ/ナビゲーションバーの表示]メニュー）。
- 2 機能ドメインCP1-Human Resourcesに関連付けられた従業員を表示します（ナビゲーションバーの**CP1-Human Resources / CP1_amEmplDept**リンク）。
- 3 完全画面が表示されています。
- 4 これは、ユーザAdminが[画面セット/デフォルトの順番]データベースオプションによって指定された画面セットに関連付けられているからです。
この例では、使用される画面セットの順番はCP1-Complete,CP1-Simplified,Custom,Full,Simpleです。

ユーザCp1 - Smithの結果を表示する

- 1 Cp1-Smithとしてデモ用データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
ログイン	smith
パスワード	パスワードは空です

- 2 機能ドメインCP1-Human Resourcesに関連付けられた従業員を表示します（ナビゲーションバーの**CP1-Human Resources / CP1_amEmplDept**リンク）。
- 3 完全画面が表示されています。

- 4 これは、ユーザCp1 - SmithがプロファイルCP1 - Human Resources Advisorに関連付けられており、このプロファイルの場合、[画面セット] (ScreenSets) フィールドの値がCP1-Complete, CP1-Simplifiedであるためです。

ユーザCp1 - Williamsの結果を表示する

フィールド	値
ログイン	williams
パスワード	パスワードは空です

- Cp1 - Williamsとしてデモ用データベースに接続します ([ファイル/データベースに接続] メニュー)。
- 2 機能ドメインCP1-Human Resources に関連付けられた従業員を表示します (ナビゲーションバーの**CP1-Human Resources / CP1_amEmplDept**リンク)。
 - 3 単純化された画面が表示されています。
 - 4 これは、ユーザCp1 - WilliamsがプロファイルCP1 - Human Resources Managerに関連付けられており、このプロファイルの場合、画面セット (ScreenSets) フィールドの値がCP1-Simplified, CP1-Completeであるためです。

テスト用データベースで用意されたカスタマイズ

AssetCenterデータベースをカスタマイズする場合、元のデータベースの整合性を保持するために、データベースのコピーを使用するようお勧めします。

ここでは、同一のバージョンのAssetCenterで、テスト用データベースを本番データベースに転送する方法を説明します。

以下の操作を行う必要があります。

- 1 本番データベースのコピーを作成する。このコピーをテスト用データベースとして使用します。
- 2 テスト用データベースを用いて、開発およびテストを実行する。
このテスト用データベースには、新しいデータが含まれます。新しいデータを分類し、本番データベースに転送します。
- 3 テスト用データベースから本番データベースにカスタマイズを伝達します
テスト用データベースから本番データベースにカスタマイズを伝達する代わりに、以下の方法もあります。
 - 1 補足データとテスト用データベースの構造をエクスポートする。
 - 2 補足データとテスト用データベースの構造を本番データベースにインポートする。
 - 3 Connect-Itを用いてテスト用データベースのデータ (レコード) を本番データベースに移行する。

本番データベースのコピーを作成する

警告:

本番データベースのコピーを作成する方法は、使用するデータベースエンジンによって異なります。データベースエンジンの付属マニュアルを参照されるようお勧めします。

空のデータベースにコピーを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 DBMSで空のシェルを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを使って空のシェルを作成する」の節を参照してください。
 - 2 DBMSログインを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを使って空のシェルを作成する」または「DBMSログインを作成する」の節を参照してください。
 - 3 空のシェルへの接続を作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterへの接続を作成する」の節を参照してください。
 - 4 AssetCenter Database Administratorを起動します。
 - 5 本番データベースに接続します（[ファイル/開く/既存のデータベースを開く]メニュー）。
 - 6 本番データベースをコピーします（[アクション/データベースを空のデータベースにコピー]メニュー）。
作成した空のシェルに対する接続を選択します。
-

注意:

この操作では、データベース全体（構造およびデータ）がコピーされます。

- ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを変更する」の節を参照してください。

テスト用データベースから本番データベースにカスタマイズを伝達する

本番データベースをカスタマイズするには2つの方法があります。

- データベースの構造を記述している「gbbase*.*/」ファイルを変更し、その変更を本番データベースにインポートする。
- 空のテスト用データベースを変更し、その変更を本番データベースに伝達する。

これらのカスタマイズは、テーブル、フィールド、リンク、画面、インデックスに関連します。

本番データベースにカスタマイズを伝達するには、AssetCenter Database Administratorを使います。

カスタマイズの伝達

本番データベースにカスタマイズを伝達するには:

- 1 本番データベースに接続します。
- 2 [アクション/カスタマイズを統合]を選択します。
- 3 ウィザード画面に表示される指示に従います。
- 4 統合が終了したら、テスト用データベース（または「gbbase*.」ファイル）に対して行ったカスタマイズが本番データベースに正しく伝達されていることを確認します。

カスタマイズ伝達のロジック

テスト用データベースに対して行われたカスタマイズは、本番データベースに対する変更を上書きします。

本番データベースに対する変更を保持しながらテスト用データベースに対するカスタマイズを統合したい場合は、両方のデータベースの構造をエクスポートし、それらと比較して、統合プログラムまたはConnect-Itシナリオを使って統合することをお勧めします。

データベース構造をエクスポートする

AssetCenter Database Administratorを使用すると、テスト用データベースの構造をエクスポートできます。

テスト用データベースの構造をエクスポートするには、以下の手順に従います。

- 1 データベース構造を保持するフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 3 本番データベースに接続します（[ファイル/開く/既存のデータベースを開く]メニュー）。
- 4 データベースの構造をエクスポートします（[ファイル/データベース構造のエクスポート]メニュー）。

データベースの構造をエクスポートすることは、以下のタイプのファイルをエクスポートすることに当たります。

- .bin
- .cfg
- .xml
- .dsd
- .str
- .stt
- .usr

- .wiz

新しいデータベース構造をインポートする



警告:

一旦インポートを実行すると、取り消すことはできません。テスト用データベースおよび本番データベースのバックアップコピーを、作成しておくようお勧めします。

テスト用データベースの構造を本番データベースにインポートすると、以下のことが可能になります。

- テスト用データベースの構造に基づいて、本番データベースを更新する。
- テスト用データベースの補足データに基づいて、本番データベースを更新する。

テスト用データベースの構造をインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 本番データベースに接続します（ [ファイル / 開く / 既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 構造の更新を選択します（ [アクション / カスタマイズを統合] ）。
- 4 ウィザード画面に表示される指示に従います。

Connect-Itを使ってデータを移行する

移行するデータのタイプに対応するConnect-Itシナリオを起動します。この際、変更されたデータと元のデータを区別するために、WHERE句を含めます。

ソフトウェアカウンタを監視する

[カウンタの作成] ウィザードで資格カウンタを作成する場合、AssetCenterは特定のレコードを主キーで識別するクエリを作成します。

カウンタのユーザ権限範囲（LicQuery）に関連するクエリの例：

```
(bDepartment = 0) AND (lEmpIDeptID = 164)
```

テスト用データベースでカウンタを作成したあと、本番データベースに転送（エクスポートしてインポート）した場合、クエリ中の識別子はおそらく間違っただレコードを参照しています。

例えば、識別子「164」は、テスト用データベースでは「Mr. Doe」で、本番データベースでは「Mrs Dour」である可能性があります。

ソフトウェアカウンタとそのクエリを本番データベースにインポートしたあとは、カウンタに関連するクエリを確認する必要があります。

ヒント:

もう1つの解決策として、クエリでレコードを識別するための主キーとして、名前やコードなどのより安定したフィールドを使用します。

複数のオペレータによって同時に行なわれたカスタマイズ

警告:

ここで説明するプロセスを実行するには、以下の領域の詳細や知識に注意する必要があります。

- AssetCenterデータベースの構造
- データのエクスポート
- データのインポート
- データベース管理
- AssetCenterの管理

本番データベースのデータの整合性を保とうとする場合、時間のかかる困難な作業となる可能性もあります。

問題の説明

ここでは、AssetCenterデータベースをチームとしてカスタマイズする方法について説明します。

ファイルに保存したカスタマイズを共有できないため、このカスタマイズには制限があります。

このため、各開発者は以下の作業を行う必要があります。

- 本番データベースのコピー（開発用データベースと呼びます）で作業を行います。
- 独自のカスタマイズは、自分のファイルに別個に保存します。

次に以下の操作を実行することができます。

- 1 個別のカスタマイズファイルをマージします。
- 2 マージしたカスタマイズを本番データベースに伝達します。

可能なカスタマイズの種類

AssetCenterデータベースは、さまざまなレベルでカスタマイズできます。

- データベースの構造パラメータ

- データベースのデータ

データベースのカスタマイズ可能な構造パラメータ

- テーブル（ラベル、説明など）
 - フィールド（ラベル、説明、サイズなど）
 - リンク（ラベル、説明、デフォルト値など）
 - インデックス（ラベル、説明、フィールドリストなど）
 - ページ（ラベル、説明、内容など）
 - 画面（ラベル、説明、ボタンなど）
 - フィールドとリンクの状況依存ヘルプ
-

注意:

これらのパラメータでスクリプトが使用されることがあります（フィールドの必須ステータスなど）。

データベースのカスタマイズ可能なデータ

- 任意管理項目および任意管理項目クラス
- 特殊フィールド
- リストデータ
- 単位
- 機能ドメイン
- アクション
- ワークフローチャート
- スクリプト
- クエリ
- レポート
- 書式
- ビュー
- ユーザ権限およびプロファイル、アクセス制限
- 機能権限
- データベースオプションおよびワンポイント
- 設定およびオプション
- ワークフローおよび配備サーバ

 注意:

カスタマイズするデータは、ニーズに合わせて選択します。

選択を行ったら、AssetCenter ユーザがこのデータに対応するテーブルを許可なく変更できないようにします。

このためにはユーザプロファイルでユーザを判断します。

例えば、ワークフローにリンクされたテーブルを変更するのをやめ、リストデータの値の変更だけを続けることができます。

アクセス制限を使用すると、可能な設定の範囲を定義する際に、より明確な指定が行なえます。

必要に応じて、対象のテーブルの識別フィールドに接頭コード (**amWfScheme.Ref** など) を使用することにより、設定で対象となるレコードの識別を簡単に行うことができます。

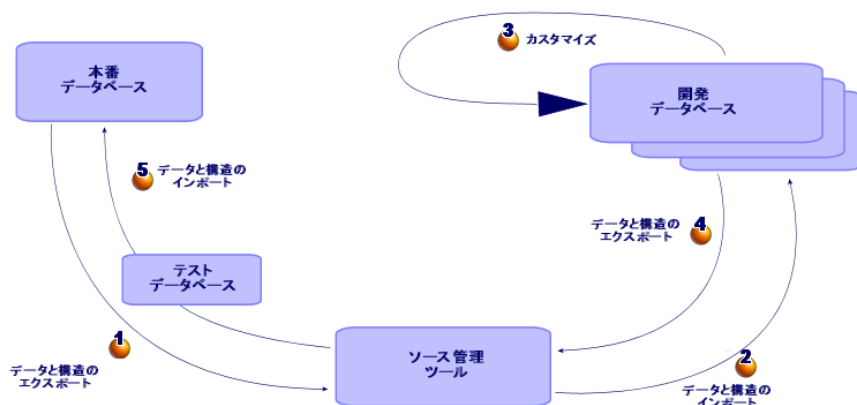
リストデータの場合、独立したリストを使用することも1つの簡単な解決方法です。

より柔軟な解決方法が必要な場合、独自に選択した基準に基づいてリストデータのアクセス制限を定義することができます。

推奨方法

グローバルプロセス

図 3.2. 複数のオペレータによるカスタマイズ-単純なプロセス




AssetCenterをチームとしてカスタマイズするには:

- 1 本番データベースのデータと構造をエクスポートする [献 82]
 - 1 本番データベースの構造をエクスポートする [献 83]
 - 2 カスタマイズするデータを本番データベースからエクスポートする [献 83]
 - 3 エクスポートの結果をソースコントロールツールに保存する [献 87]
 - 4 テストデータの作成 [献 87]




 注意:

この一連のステップは、プロジェクトを初めて実行するときに一度だけ実行します。

- 2  開発用データベースのデータと構造をインポートする [献 88]
 - 1 開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期する [献 88]
 - 2 ソースコントロールからのファイルを確認する [献 88]
 - 3 開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [献 88]
-

 注意:

これらのステップを初めに一度実行したら、あとは必要に応じて実行します。

- 3  開発用データベースをカスタマイズする [献 93]
 - 1 開発用データベースの構造をカスタマイズする [献 93]
 - 2 開発用データベースのデータをカスタマイズする [献 93]
- 4  開発用データベースのデータと構造をエクスポートする [献 94]
 - 1 カスタマイズした開発用データベースのデータをエクスポートする [献 94]
 - 2 開発用データベースからカスタマイズしたデータをエクスポートする [献 94]
 - 3 ソースコントロールツールのファイルを更新する [献 94]
- 5  データと構造を本番データベースにインポートする [献 94]
 - 1 テスト用データベースを作成し、マージしたカスタマイズデータをインポートする [献 94]
 - 2 テスト用データベースをテストする [献 95]
 - 3 カスタマイズした構造を本番データベースに適用する [献 95]
 - 4 カスタマイズしたデータを本番データベースにインポートする [献 96]

本番データベースのデータと構造をエクスポートする

本番データベースを直接変更しないので、データベースのデータと構造をテキストファイルの形式でエクスポートする必要があります。

テキスト形式を使用すると、得られたファイルをリビジョンコントロール（またはソースコントロール）ツールで管理することができます。

エクスポート中に得られたファイルによって、以下の操作が可能です。

- カスタマイズの前に本番データベースの構造をトラッキングする
- カスタマイズとカスタマイズのテストのための開発用データベースを作成する
- 開発用データベースのカスタマイズ後に生成されたファイルを元のファイルと比較する

本番データベースの構造をエクスポートする

本番データベースの構造をエクスポートするには:

- 1 エクスポートの結果を保存するフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 3 本番データベースに接続します ([ファイル/開く/既存のデータベースを開く] メニュー)。
- 4 データベースの構造をエクスポートします ([ファイル/データベース構造のエクスポート] メニュー)。

データベースの構造をエクスポートすると、以下のファイルが作成されます。

- <接続名>.bin : 一時ユーザの定義 (変更不可)
- lstpage_xx.cfg : ページの説明
- lstdet_xx.cfg: 画面の説明
- <接続名>.xml : データベースの構造
- <接続名>_xx.xml : データベースのディクショナリ
- dawkfl.dsd : 自動ワークフローの定義 (変更不可)
- tips.str : ワンポイント
- <接続名>_xx.str : フィールドとリンクの状況依存ヘルプ
- <接続名>.wiz : ウィザードの機能ライブラリ

注意:

xx は、(使用可能な) AssetCenterの言語バージョンに対応します。

- en : 英語
- fr : フランス語
- de : ドイツ語
- it : イタリア語
- sp : スペイン語
- ja : 日本語

カスタマイズするデータを本番データベースからエクスポートする

注意:

本番データベースにデータが入っていない場合でも、ここで、プロセス全体を通して用いるインポートスクリプトを作成します。

カスタマイズするデータをエクスポートするには:

- 1 データベースからのデータを保持するフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Exportを起動します。

- ▶ マニュアル『高度な使い方』の「データのエクスポートとSQLビューの作成」の章
- 3 本番データベースに接続します。
 - 4 [編集/オプション]メニューを選択します。
 - 5 プランチ [編集] を展開します。
 - 6 [データベースオブジェクトの表示] をSQL名 (説明) に設定します。
 - 7 この設定を確定します ([OK] ボタン)。
 - 8 新しいエクスポートスクリプトを表示します ([ファイル/新規作成] メニュー)。
-

 **ヒント:**

サンプルデータに含まれる「custom.scx」テンプレートを使用してエクスポートスクリプトを作成することもできます。

このスクリプトはC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00xx\datakit\customフォルダまたはその周辺にあります。

▶ 「custom.scx」スクリプトは「データベースのカスタマイズ-考慮するテーブル [献 96]」セクションの指示に従っています。

- 9 このスクリプトを選択した名前で保存します ([ファイル/保存] メニュー)。
-

 **重要項目:**

スクリプトに加えた変更を定期的保存します。

- 10 エクスポートする各データセットのクエリを追加します。通常、1テーブル当たり1データセットです ([新規作成] ボタン)。
考慮するテーブルのリスト : ▶ データベースのカスタマイズ-考慮するテーブル [献 96]
 - 11 各クエリに対して以下を実行します。
 - 1 クエリに名前をつけます ([名前] フィールド)。
-

 **ヒント:**

クエリの名前として、エクスポートしたテーブルのSQL名を使用することをお勧めします。





例 : amAction

- 2 エクスポートしたデータの保存に使用するファイルのフルパスを定義します ([ファイル] フィールド)。

 ヒント:

ファイル名として、エクスポートしたテーブルのSQL名を使用することをお勧めします。

例：amAction.txt

-
- 3 [クエリ] フィールドの横にある拡大鏡をクリックします。
 - 4 左のリストから右のリストに以下の要素を追加します。
 - 以下を除くすべてのフィールド
 - [変更日] (dtLastModif)
 - [階層レベル] (sLvl)これらのフィールドは、 アイコンによって識別されます。
 - すべての [メモ] フィールド
これらのフィールドにはリンクの一覧からアクセスできます。
フィールドは、 アイコンによって識別されます。
 - 便利な1リンク (nリンクはなし)
これらは、 または  アイコンによって識別されます。
リンクに対して、関連照合更新キーを構成するフィールドを選択します (複数選択可)。
▶ [データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル](#) [献 96]
主キーを使用しないでください。
 - 5 照合更新キー (1個の数字を持つ赤い矢印) を構成するフィールドの並べ替えを可能にします。

 警告:

これは、エクスポートしたファイルをソースコントロールツールで管理しやすくするために必要です。

ファイルを適切に並べ替えないと、ソースコントロールアプリケーションが対象となるファイル間の違いを解析できません。

 **重要項目:**

例外：テーブルに[完全名](SQL名：**FullName**)フィールドがある場合、[完全名]での並べ替えだけをオンにし、[表示]チェックボックスをクリアします。

[完全名]フィールドでの並べ替えを有効にすると、子レコードの前に親レコードをインポートすることができます。この方法を用いることで、必ず親リンクが入力されるようになります。

[表示]チェックボックスのチェックをクリアすると、[完全名]フィールドがエクスポートされません。後で完全名フィールドをインポートできないおそれがあります。

このフィールドはインポート時に親/従属リンクから自動生成されます。

-
- 6 [**OK**] をクリックして選択を確定します。
 - 7 テーブルの照合更新キーを構成する各フィールドの後の [クエリ] フィールドに、 [キー値] を追加します。

例

```
SELECT sX, sY, seType, Comment.memComment, WfTransition.Ref keyvalue, WfScheme.Ref keyvalue FROM amWfSysActiv ORDER BY ISysActivId
```

この例では、 [WfTransition.Ref] フィールドと [WfScheme.Ref] フィールドの後に [キー値] を追加しています。これらのフィールドが [amWfSysActiv] テーブルのレコードの照合更新キーを構成しているからです。

 **注意:**

AssetCenter Exportは、エクスポート中に作成された特定ファイルに「keyvalue」フィールドの値を使用します。

-
- 8 [クエリ] フィールドで、画像に対するリンクがある場合 ([画像] テーブル (amImage))、画像識別子を <リンク>.Name と置き換えます。

例

```
SELECT Name, SQLName, Comment.memComment, WfActivity.Ref keyvalue, WfEvent.Ref, IIconId FROM amWfUserChoice ORDER BY IUserChoiceId
```

結果

```
SELECT Name, SQLName, Comment.memComment, WfActivity.Ref keyvalue, WfEvent.Ref, Icon.Name FROM amWfUserChoice ORDER BY IUserChoiceId
```

この例では、 IIconId が Icon.Name に置き換えられています。

- 12 [書式設定] タブを表示します。
- 13 [列タイトル] に値SQL名を入力します。

- 14 スクリプトを保存します（ [ファイル/保存] メニュー）。
- 15 スクリプトを実行します（ [アクション/スクリプトの実行] ）。
- 16 エクスポートの結果を表示します。1クエリあたり1ファイルと、メモフィールドとエクスポートレコードあたり1ファイルが得られます。
エクスポートの結果に一貫性があることを確認します。

エクスポートの結果をソースコントロールツールに保存する

これにより、以下を実行することができます。

- 変更を加えるたびにデータベース構造とカスタマイズしたデータをトラッキングする。
必要に応じて前のステータスに戻り、異なるバージョンを比較することができます。
- 別の人が変更したファイルをマージする。

注意:

異なるファイルバージョンのマージは、ソースコントロールツールの基本機能の1つです。

エクスポートプロセス中に取得したファイルをソースコントロールツールに追加します。

重要項目:

これ以降、データベース構造に変更を加えるときや、データベースをカスタマイズするときには、これらのファイルを出発点として使用する必要があります。

エクスポートの結果をソースコントロールツールに保存するには:

使用するソースコントロールツールのマニュアルを参照してください。

テストデータの作成

カスタマイズの際、開発用データベースの処理にテストデータを使用する必要があるものの、それをソースコントロールに保存するのは不便な場合があります。例えば、アクションを作成するとき、作成者をアクションと関連付ける必要があります。作成者は [従業員] テーブル (amEmplDept) から選択します。このため、開発用データベースに従業員レコードが必要となります。しかしこれらの従業員レコードは、カスタマイズの必要がありません。こうした理由から、従業員はソースコントロールに保存されません。

以下からテストデータセットを作成することをお勧めします。

- 本番データベースからのデータ：
 - ターゲットテーブルのレコード（例えば [従業員] ）およびカスタマイズするテーブル（例えば [アクション] ）のリンク（例えば [作成者] ）

- テストに必要なテーブルのすべてのレコードまたは選択したレコード
- その他のデータ（必要な場合）

開発用データベースのデータと構造をインポートする

開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期する

開発者は、各自のコンピュータでデータベースをカスタマイズする前に、データがソースコントロールのデータと同期しているデータベースを作成する必要があります。

開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期するには:

- 1 ソースコントロールツールをインストールして、設定を行いません。
- 2 開発用コンピュータでデータベースの構造ファイルを同期します。

ソースコントロールからのファイルを確認する

各開発者は、何を変更するかを認識し、対応するファイルを確認する必要があります。

ソースコントロールからのファイルを確認するには:

使用するソースコントロールツールのマニュアルを参照してください。

開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする

各開発者がデータベースを独立してカスタマイズできるように、それぞれの開発者に対して開発用データベースを作成します。

開発用データベースを作成するには:

- 1 DBMSで空のシェルを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを使って空のシェルを作成する」の節を参照してください。
- 2 DBMSログインを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを使って空のシェルを作成する」または「DBMSログインを作成する」の節を参照してください。
- 3 空のシェルへの接続を作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterへの接続を作成する」の節を参照してください。
- 4 AssetCenter Database Administratorを起動します。

- 5 開発用コンピュータのソースコントロールから同期した<接続名>.xmlファイルを開きます（ [ファイル/開く] メニュー、 [データベース記述ファイルを開く（新規データベースの作成）] オプション）。
このファイルは、ステップ本番データベースの構造をエクスポートする[献83]で取得します。
- 6 データベース作成ウィザードを起動します（ [アクション/データベースの作成] ）。
- 7 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページを移動するには、 [次へ] または [前へ] ボタンを使用します）。
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	AssetCenterで作成した空のシェルへの接続を選択します。
作成 高度な作成オプションを使用	データベースを作成 テーブル、インデックス、LOBのテーブルスペースを定義するにはこのオプションを選択します。

[作成オプション] ページ：



注意:

DBMSを使用してあらかじめテーブルスペースを作成しておく必要があります。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者ログインに関連付けるパスワード。 注意: AssetCenterデータベース管理者は、 [部署と従業員] （ amEmplDept ） テーブルに記録され、その [名前] （ Name ） フィールドは Admin になります。 データベース接続ログインは [ユーザ名] （ UserLogin ） フィールドに格納され、管理名は Admin になります。
確認	[パスワード] フィールドに入力した値を確認します。

フィールド	値
ライセンスファイル	AssetCenterに付属のライセンスファイル 「license.cfg」を選択します。

[システムデータの作成] ページ :

フィールド	値
タイムゾーンの使用	このオプションを選択すると、データベースサーバ、日付フィールド、AssetCenterクライアントのタイムゾーンの時間差を管理できます。 ▶マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「タイムゾーン」の章。
サーバ	AssetCenterデータベースサーバのタイムゾーンを選択します。 この場合は、例えば、サーバのWindowsコントロールパネルで定義されたタイムゾーンになります。
データ	データベースに保存された日付を表示するタイムゾーンを選択します。
フィールドのヘルプの使用	このオプションを選択すると、データベースフィールドとリンクに関する情報が挿入されます。

[インポートするデータ] ページ :

フィールド	値
使用可能データ	どのデータも選択しないでください。
エラー発生時にインポートを中止	このオプションは選択しないでください。
ログファイル	このフィールドには入力しないでください。

8 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します ([完了] ボタン)。

開発用データベースにカスタマイズするデータをインポートするには:

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します。
- 3 インポート機能を開始します ([ファイル / インポート]、 [データベースのインポート] ボタン、 [テキスト] タブ、 [開く] ボタン)。
- 4 [編集 / オプション] メニューを選択します。
- 5 オプション [ソースデータベースから空欄のフィールドをインポートしない] をクリアします。
- 6 この設定を確定します ([OK] ボタン)。
- 7 選択した名前を使用してブランクのインポートスクリプトを保存します ([ファイル / 保存] メニュー)。

 **重要項目:**

スクリプトに加えた変更を定期的に保存します。


 **ヒント:**

サンプルデータに含まれる「custom.scx」テンプレートを使用してエクスポートスクリプトを作成することもできます（[ファイル/スクリプトを開く]）。このスクリプトはC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.00 xx\datakit\customフォルダまたはその周辺にあります。

▶ 「custom.scr」スクリプトは「データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [献 96]」セクションの指示に従っています。

- 8 エクスポートしたデータファイルをインポートするようにスクリプトを設定します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「インポート」の章。
 - 9 インポートする各ファイル（各エクスポートファイルに対して1つ ▶ データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [献 96]）に対して以下を実行します。
 - 1 ファイルを追加します（[ファイル/ファイルの追加]）。
 - 2 ウィザードによって表示されるページ（特に以下のページ）に入力します。
 - ページ1：オプション [最初にインポートする行に列名を含める] と [区切り文字] を選択します。
 - ページ2：オプション [タブ] を選択します。
 - ページ3：[日付] または [日付と時刻] データを含む列を選択し、[タイプ] フィールドに入力します。
 - 3 ターゲットテーブル（インポートしたファイルに一致するメインテーブル）を選択します。
 - 4 ファイルをテーブルにマッピングします（[編集/マッピング]）。
 - 5 マッピング（ファイル、ターゲットテーブル）を選択します。
 - 6 ファイルの列をターゲットテーブルのフィールドにマッピングします（[編集/プロパティ]メニュー）。
-


 **ヒント:**

 ボタンを使用して、SQL名に基づきフィールドを自動的にマッピングすることをお勧めします。

特定のフィールドに対しては、[ファイル]タイプの計算式を作成し、そのフィールドではなく、ターゲットフィールドにマッピングする必要があります。

これは、特に以下のフィールドにあてはまります。

- [メモ] フィールド
- [データ] フィールド (blbData)
- [スクリプト] フィールド (memScript)
- [機能権限] テーブルの [定義] フィールド
- [ワークフローイベント] テーブル (amWfEvent) の [期間] フィールド

 ボタンを使用すると、式が自動的に作成され、適切なフィールドに関連付けられます。

これらの式のいずれかの詳細を見るには、以下を表示します。

- [フィールドのタイプ] フィールド: [ファイル]
- 「メインフィールド」フィールド: メモを保存しているファイル名を示した、エクスポートしたファイルの列名


[期間] フィールド (timespanの場合、SQL名がtsで開始します) の場合、次の任意管理項目を持つ公式も作成する必要があります。

- フィールドタイプ: スクリプト
- スクリプト:RetVal=[<フィールドのSQL名>]&"s"
例:RetVal=[tsDelay]&"s"

作成した特殊フィールドを、(デフォルト設定のソースフィールドではなく)ターゲットフィールドに関連付けます。

- 7 テーブルデータベースのカスタマイズ-考慮するテーブル[献 96]に推奨されたキーをメインテーブルおよびリンクされたテーブルの照合更新キーとして定義します。

警告:

 ボタンによって適切なキーが自動的に選択されることはありません。それらを系統的に検証する必要があります。

-
- 10 スクリプトを保存します ([ファイル/保存] メニュー)。
 - 11 インポート設定を検証します ([編集/オプション] メニュー)。
 - 12 スクリプトを実行します ([インポート] ボタン)。
 - 13 インポートの結果に一貫性があることを確認します。

重要項目:

ワークフローチャート以外のテーブルには、これらの手順で十分です。ワークフローチャートの場合は、スクリプトが正しく動作するよう、徹底したスクリプトのテストを行なう必要があります。

開発用データベースにテストデータをインポートするには:

カスタマイズするデータをインポートする場合と同じ方法で新しいインポートスクリプトを作成します。

開発用データベースをカスタマイズする

開発用データベースの構造をカスタマイズする

データベースの構造を複数の開発者が同時に変更することができます。

個々の開発者が開発用データベースの構造をカスタマイズするには:

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 開発用データベースのインスタンスに接続します（ [ファイル / 開く / 既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 データベースの構造を変更します。
- 4 変更を保存します（ [ファイル / 保存] メニュー）。

開発用データベースのデータをカスタマイズする

データベースのデータを複数の開発者が同時に変更することができます。

開発用データベースのデータをカスタマイズするには:

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します（ [ファイル / 開く / 既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 開発用データベースのデータを変更します。

ヒント:

レコードを作成または変更した開発者を識別できるように、テーブルデータベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [献 96] に推奨されたキーを入力します。

例えば各識別子を、それぞれの開発者の接頭コードで始めることができます。

ヒント:

テストを実行する際、一時レコードの作成が必要となる場合があります。

これらの一時レコードは忘れずに削除してください。

レコードの数が多くなり過ぎた場合は、別のテストおよび開発用データベースの作成が必要です。

4 開発用データベースのデータと構造をエクスポートする

カスタマイズした開発用データベースのデータをエクスポートする

この操作は、カスタマイズした開発用データベースごとに行なう必要があります。

開発用データベースの構造をエクスポートするには:

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します（ [ファイル/開く/既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 構造ファイルを同期した場所にデータベース構造をエクスポートします（ [ファイル/データベース構造のエクスポート] ）。

開発用データベースからカスタマイズしたデータをエクスポートする

開発用データベースのデータをエクスポートするには:

- 1 AssetCenter Exportを起動します。
- 2 開発用データベースのインスタンスに接続します。
- 3 エクスポートするデータに対応する各スクリプトに対して、以下を実行します。
 - 1 スクリプトを開きます（ [ファイル/スクリプトを開く] ）。
 - 2 スクリプトを実行します（ [アクション/スクリプトの実行] ）。

▶カスタマイズするデータを本番データベースからエクスポートする[献83]

ソースコントロールツールのファイルを更新する

開発者は、変更を終了したら、エクスポートしたファイルをソースコントロールに戻します。

開発者がファイルを処理しているあいだに、別のユーザがソースコントロールの中央に保存しているファイルを更新した場合、他のユーザによる変更を上書きしないよう、ファイルを戻す前に変更をマージする必要があります。

ソースコントロールツールは、後続バージョン間で行なわれた変更を強調表示するdiff and mergeツールといっしょに使用することができます。

5 データと構造を本番データベースにインポートする

テスト用データベースを作成し、マージしたカスタマイズデータをインポートする

すべての開発者が自分の開発用データベースをカスタマイズし、結果をソースコントロールに戻したら、テスト用データベースで新しい構造の実用性とカスタマイズデータのインポートを検証する必要があります。

最新の構造を持つテスト用データベースを作成するには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [献 88]と同じ手順に従います。

カスタマイズしたデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [献 88]と同じ手順に従います。

テストデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [献 88]と同じ手順に従います。

テスト用データベースをテストする

データベースの構造が、開発用データベースで行なったカスタマイズと一致することを確認します。

また、開発用データベースでカスタマイズしたオブジェクトを1つまたは複数テストします。

例えばアクションの場合、いくつかのアクションを実行して正しく機能するかをチェックします。

カスタマイズした構造を本番データベースに適用する

テスト用データベースでのテストが成功したら、本番データベースの更新も可能です。

カスタマイズした構造を本番データベースに適用するには:

- 1 ソースコントロールツールを起動します。
- 2 構造ファイルとデータを含むフォルダを同期します。
- 3 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 4 本番データベースを開きます。
- 5 [アクション / カスタマイズを統合] を選択します。
- 6 [データベース記述ファイルから統合] オプションを選択します。
- 7 作業フォルダ: 選択した一時フォルダ
- 8 ソースファイル: 同期した構造ファイル<データベース名>.xmlのフルパス (ファイル<データベース名>_xx.xmlを選択しないでください)
- 9 [統合] をクリックします
- 10 統合を実行したら、本番データベースでカスタマイズが正しく行なわれたかを確認します。

カスタマイズしたデータを本番データベースにインポートする

カスタマイズしたデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [献 88] と同じ手順に従います。

参照 : カスタマイズ可能なテーブル

次に、カスタマイズ可能なオブジェクトの一覧を示します。

これらのオブジェクトのそれぞれに対して、関連テーブルが示されます。

これらの各テーブルの推奨照合更新キーは、便利な1リンクとして指定されます (メモリンクと画像リンクは指定されません)。

ヒント:

インポートでは、テーブルの順序が重要となります。インポートした特定のレコードが、すでに存在するはずの別のテーブルのレコードを参照するからです。以下に示すテーブルの順序は、テーブル間の依存関係に従っている必要があります。

表 3.3. データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
画像		
画像 (amImage)	名前 (Name)	
特殊フィールド		
特殊フィールド (amCalcField)	SQL名 (SQLName) + テーブル (TableName)	
スクリプト		
スクリプト (amScriptLibrary)	SQL名 (SQLName)	
単位		
単位 (amUnit)	シンボル (Symbol)	
機能ドメイン		
機能ドメイン (amFuncDomain)	SQL名 (SQLName)	親ドメイン (Parent.Code)
クエリ		
クエリ (amQuery)	SQL名 (SQLName)	作成者.ID番号 (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
ビュー		
ビュー (amViewDef)	SQL名 (SQLName)	作成者.ID番号 (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
アプリケーションのオプション		
アプリケーションのオプション (amOption)	<ul style="list-style-type: none"> ■ セクション (OptSection) ■ エントリ (OptEntry) 	従業員.ID番号 (EmplDept.IDNo)
設定およびオプション		
設定およびオプション (amSysConfig)	<ul style="list-style-type: none"> ■ エントリ (CfgEntry) ■ セクション (CfgSection) ■ 従業員 (EmplDept.IDNo) 	従業員.ID番号 (EmplDept.IDNo)
レポート		
レポート (amReport)	SQL名 (SQLName)	作成者.ID番号 (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
形式		
内部形式 (amForm)	SQL名 (SQLName)	作成者.ID番号 (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
リストデータ		
リストデータ (amItemizedList)	識別子 (Identifier)	
リストデータ値 (amItemListVal)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 値 (Value) ■ リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier) 	リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier)
任意管理項目		
任意管理項目クラス (amFeatureClass)	コード (Code)	親クラス (Parent.Code)
任意管理項目 (amFeature)	SQL名 (SQLName)	クラス.コード (FeatureClass.Code) リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier) 単位.シンボル (Unit.Symbol)
任意管理項目 (amFeature)	SQL名 (SQLName) とソース任意管理項目. SQL名 (SrcFeatures.SQLName) だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行いません。	

注意:

この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中に統合する任意管理項目と統合される任意管理項目との間にリンクを作成することができます。

これを実現できるのは、これらの任意管理項目がすべて存在している場合だけです。

この条件は、最初のファイルをインポートすることにより保証されます。

AssetCenter Exportは、1リンクあたり1行を生成します。

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
任意管理項目パラメータ (amFeatParam)	<ul style="list-style-type: none"> ■ テーブル (TableName) ■ 任意管理項目.SQL名 (Feature.SQLName) 	このパラメータのヘルプ.説明 (ShortHelp.Comment) このパラメータのヘルプ.例 (ShortHelp.Example) このパラメータのヘルプ.注 (ShortHelp.Warning) 任意管理項目.SQL名 (Feature.SQLName)
アクション		
アクション (amAction)	SQL名 (SQLName)	作成者.ID番号 (Author.IDNo) 配備ワークフロー.参照 (DaWfScheme.Ref) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName) 実行するアクション.SQL名 (ExecAction.SQLName) 形式.SQL名 (Form.SQLName) レポート.SQL名 (Report.SQLName)
ユーザプロファイル		
ユーザプロファイル (amProfile)	SQL名 (SQLName)	デフォルトアクション.SQL名 (DefLoginAction.SQLName)
ユーザ権限 (amUserRight)	SQL名 (SQLName)	
アクセス制限 (amAccessRestr)	SQL名 (SQLName)	
機能権限 (amFuncRight)	SQL名 (SQLName)	
ユーザ権限 (amUserRight)	SQL名 (SQLName) とプロファイル. SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行ないます。	
	注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルとユーザ権限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Exportは、1リンクあたり1行を生成します。	
アクセス制限 (amAccessRestr)	SQL名 (SQLName) とプロファイル. SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行ないます。	
	注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルとアクセス制限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Exportは、1リンクあたり1行を生成します。	

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
機能権限 (amFuncRight)	SQL名 (SQLName) とプロファイル SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行ないます。	
	注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルと機能権限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Exportは、1リンクあたり1行を生成します。	
ワークフローチャート		
従業員グループ (amEmplGroup)	バーコード (BarCode)	管理者.ID番号 (Supervisor.IDNo) 親グループ.バーコード (Parent.BarCode)
従業員グループ (amEmplGroup)	バーコード (BarCode)とメンバ.ID番号 (Members.IDNo)だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行ないます。	
	注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にワークフローグループとメンバとの間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Exportは、グループとメンバ間で1行ずつエクスポートします。	
役割 (amWfOrgRole)	参照 (Ref)	指定代理人.ID番号 (Assignee.IDNo) グループ.バーコード (EmplGroup.BarCode)
ワークフローチャート (amWfScheme)	参照 (Ref)	責任者.ID番号 (Supervisor)
システムアクティビティ (amWfSysActiv)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ タイプ (seType) 	ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
	注意: この最初のファイルでは、WHERE句を追加してSTARTアクティビティを抽出しません (seType = 0)。	

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
ワークフローアクティビティ (amWfActivity)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ 参照 (Ref) 	指定代理人.参照 (Assignee.Ref) カレンダー.SQL名 (Calendar.SQLName) アクション.SQL名 (NotifAssignAct.SQLName) テンプレート.参照 (Template.Ref) テンプレート.ワークフロー.参 照 (Template.WfScheme.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ウィザード.SQL名 (Wizard.SQLName)
ユーザ選択 (amWfUserChoice)	<ul style="list-style-type: none"> ■ SQL名 (SQLName) ■ アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) ■ アクティビティ.ワークフ ロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref) 	アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) アクティビティ.ワークフロー. 参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)
ワークフローイベント (amWfEvent)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ ソースアクティビティ.参照 (SrcActivity.Ref) ■ 参照 (Ref) 	ソースアクティビティ.参照 (SrcActivity.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
ワークフローの遷移 (amWfTransition)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参照 (Ref) ■ ソースイベント.参照 (SrcEvent.Ref) ■ ソースイベント.ソースアク ティビティ.参照 (SrcEvent.SrcActivity.Ref) ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) 	ソースイベント.参照 (SrcEvent.Ref) ソースイベント.ソースアクティ ビティ.参照 (SrcEvent.SrcActivity.Ref) ターゲットアクティビティ.参 照 (TargetActiv.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
システムアクティビティ (amWfSysActiv)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ トランジション.参照 (WfTransition.Ref) ■ トランジション.ソースイベント.参照 (WfTransition.SrcEvent.Ref) ■ トランジション.ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (WfTransitionSrcEventSrcActivity.Ref) 	トランジション.参照 (WfTransition.Ref) トランジション.ソースイベント.参照 (WfTransition.SrcEvent.Ref) トランジション.ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (WfTransitionSrcEventSrcActivity.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
注意:		
この2番目のファイルでは、WHERE句を追加してENDアクティビティを抽出します (seType = 1)。		
ワークフローアクティビティ (amWfActivity)	ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)、参照 (Ref)、アクション.SQL名 (Actions.SQL name) だけを使ってレコードの2度目のエクスポートを行ないます。	
注意:		
この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にワークフローグループとアクションとの間にリンクを作成することができます。		
AssetCenter Exportは、1リンクあたり1行を生成します。		
ワークフローアラーム (amWfActivAlarm)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参照 (Ref) ■ アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) アクティビティ.ワークフロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)	アクション.SQL名 (Action.SQLName) アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) アクティビティ.ワークフロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)
カレンダー		
タイムゾーン (amTimeZone)	コード (Code)	
営業日のカレンダー (amWorkCalendar)	SQL名 (SQLName)	タイムゾーン.コード (TimeZone.Code)
通貨		
通貨 (amCurrency)	名前 (Name)	
為替レート (amCurRate)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソース通貨.名前 (SrcCurrency.Name) ■ ターゲット通貨.名前 (TargetCurrency.Name) レートの日付 (dtStart)	ソース通貨.名前 (SrcCurrency.Name) ターゲット通貨.名前 (TargetCurrency.Name)

コメント：照合更新キーの選択

照合更新キーの選択には以下の注意が必要です。

- 主キーを照合更新キーとして使用することはできません。事実上、各開発者は自分の開発用データベースに固有の主キーを生成します。ただし、これらの識別子は、いったん本番データベースにインポートすると別のものになります（主識別子をインポートすることはできません。AssetCenterが、インポートプロセス中に自動的に主識別子を生成します）。
- 将来、本番データベースをカスタマイズし直したときに、レコードを更新するための照合更新キーが必要です。


例

- 1 カスタマイズの最初の一巡で、開発者は開発用データベースに新規アクションA1を作成します。
このアクションの主キーは、PK1とそのSQL名SQL1です。
- 2 本番データベースにインポートすると、アクションA1の主キーは自動的に変化します（PK2）。ただし、そのSQL名は変わりません（SQL1）。
- 3 カスタマイズの後続の一巡で、開発者は開発用データベースのアクションA1を変更します。
このアクションの主キーはPK1で、そのSQL名はSQL1です。
- 4 本番データベースにインポートすると、アクションA1がSQL名（SQL1）によって本番データベースで識別されます。SQL名は照合更新キーとして使用されます。アクションA1を記述するレコードが更新されます。

4 データベースオプション

一部のオプションはデータベースにのみ関連します。
オプションは、データベースへ接続する全クライアントコンピュータに共通しています。
本章ではオプションの内容と設定方法を説明します。

データベースオプションを設定するには

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2  **警告:**
Adminユーザと [管理者権限] オプションが選択されているユーザのみが、データベースオプションを設定できます。
データベースに接続します ([ファイル / データベースに接続] メニュー)。
- 3 データベースオプションのリストを表示します ([管理 / データベースオプション] メニュー)。
- 4 変更するオプションを選択します。
- 5 以下のいずれかの方法を使用して続行します。
 - [現在の値] 列内のオプションの値をダブルクリックします。
 - [**Shift**+スペースバー] を押します。
- 6 値を変更するには以下の方法があります。

- 値がリストの一部である場合は、値をリストから選択します。
 - 1行分の値を自由に入力できる場合は、[現在の値]列に値を入力します。
 - 複数行の値を自由に入力できる場合は、オプションウィンドウの下部に表示される編集ゾーンを使って値を記入します。
-

 ヒント:

このウィンドウが表示されない場合は、オプションウィンドウの下枠部分にマウスポインタを置き、画面分割用ポインタが表示されたらポインタを上部へドラッグします。

- 7 オプションを確定します ([OK] ボタン)。
- 8 AssetCenterクライアントで新規オプションが有効になるよう、ユーザにデータベースへ再接続してもらいます。

データベースオプションの設定ウィンドウ

 注意:

黒で表示される値は編集不可能です。

青で表示される値は編集可能です。

[デフォルト値]列に、参照用の標準値を表示できます。

表 4.1. データベースオプション - 使用可能なオプションの説明

セクション	オプション名	説明	値の例
調達	受領時に消耗品の経費明細を作成	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：消耗品が受領されると経費明細が作成されます。これは消耗品の購入に対応します。 消耗品の消費時（消耗品が親資産に割り当てられる時）には、追加の経費明細は作成されません。 この「消費」も考慮に入れた上で経費明細を作成する必要がある場合は、経費付替え規則を作成しなければなりません。 ■ いいえ：消耗品を受領後に作成しても、経費明細は作成されません。 消耗品の消費時（消耗品が親資産に割り当てられる時）に、経費明細が作成されます。 	はい
調達	AssetCenter Serverで受領品をポートフォリオに自動的に作成	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：発注された品目を受領すると、[受領伝票]テーブル（amReceipt）にレコードが作成されます。 ただし、受領品は他のテーブル（資産、コンピュータ、ポートフォリオ品目など）には作成されません。 一時レコードは[受領品]テーブル（amItemsReceived）に作成され、AssetCenter Serverの[受領品に対応する資産、消耗品などの作成]モジュールにより処理されます。 AssetCenter Serverが最終的なテーブルにレコードを作成します。 この方法の目的：AssetCenterではなくAssetCenter Serverを使ってこのタスクを実行することにより、発注の受領に使用するクライアントコンピュータのパフォーマンスの向上を図ることができます。 ■ いいえ：発注された品目を受領すると、[受領伝票]テーブル（amReceipt）にレコードが作成されます。 受領品に対応するレコードが他のテーブル（資産、コンピュータ、ポートフォリオ品目など）にも直ちに作成されます。 	はい

セクション	オプション名	説明	値の例
インポート	インポート中の履歴を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：データのインポートにより発生した変更に関するレコードは、[履歴]テーブル(amHistory)には作成されません。 ■ いいえ：データのインポートにより発生した変更が、履歴を保持するフィールドまたはリンクに関する場合、1レコードが、[履歴]テーブル(amHistory)に作成されます。 	はい
ウィザード	Basic関数	このオプションは、ウィザードタイプのアクションで呼び出されるBASIC関数を含んでいます。	
ワンポイント	ワンポイントのテキスト	AssetCenterの起動時に表示されるワンポイント「ご存知でしたか？」のリスト。	ヒント2： [Shift+F9]キーを押すと、ウィザードデバッグが起動されます。
LDAP認証	認証にLDAPサーバを使用する	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：データベースへの接続時に入力されるパスワードは、外部LDAPディレクトリ内で検索されます。 ■ いいえ：データベースへの接続時に入力されるパスワードは、[部署と従業員]テーブル(amEmplDept)の[パスワード]フィールド(LoginPassword)内で検索されません。 	はい
LDAP認証	匿名LDAP接続を許可する(パスワードなしの空のログイン)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [はい]：匿名LDAP接続が許可されます。 ■ [いいえ]：匿名LDAP接続は無効に設定され、LDAPサーバがログインとパスワードの有効性をチェックします。 <p>このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する]オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。</p>	空
LDAP認証	LDAPサーバにSSL(セキュリティで保護された接続)を使用する	<ul style="list-style-type: none"> ■ [はい]：LDAP証明書ディレクトリ(LDAPCertDirまたはLDAPCertfile)経由で認証を行います。 ■ [いいえ]：データベースへの接続時に入力したパスワードを外部LDAPディレクトリで検索します。 <p>このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する]オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。</p>	はい

セクション	オプション名	説明	値の例
LDAP認証	LDAPサーバ名	AssetCenterユーザのログインとパスワードを保存するディレクトリを表示するサーバ名 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。	MyLDAPServer
LDAP認証	LDAPサーバポート	ディレクトリに関するデータの要求をリッスンするLDAPサーバのポート このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。	389
LDAP認証	LDAPディレクトリのログインを格納する [amEmplDept] テーブルのフィールドのSQL名	このオプションはデフォルトで、AssetCenterデータベースとLDAPディレクトリで同じログインを使用するものと仮定しています。このログインは、[部署と従業員] テーブル (amEmplDept) の [ユーザ名] フィールド (UserLogin) に格納されています。 AssetCenterデータベースとLDAPディレクトリのログインを別のものにすることも可能です。この場合は、LDAPディレクトリのログインを格納するフィールドを選択し、このフィールドのSQL名をオプションで指定する必要があります。 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。	Field1
認証	ライセンスファイル	AssetCenterデータベースに挿入したライセンスファイル ([ツール/ライセンスファイルの編集] メニュー)。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	
認証	AssetCenter Server署名	AssetCenter Serverが定期的にデータベースに接続していることを確認するために、AssetCenterにより使用されます。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	AssetCenter Serverにより更新されます。
任意管理項目	統合された任意管理項目の再計算を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：統合された任意管理項目に含まれる任意管理項目の値が変化したときに、合計値が再計算されません。 ■ いいえ：統合された任意管理項目に含まれる任意管理項目の値が1つでも変化すると、合計値が再計算されます。 	はい

セクション	オプション名	説明	値の例
AssetCenter データベースへのアクセスの制御	スロットの更新間隔 (分)	クライアントがログインスロットを更新する間隔	10
アクセスコントロール	自動切断を有効にする	非活動時にデータベースからクライアントを自動的に切断します。	はい
アクセスコントロール	スロットの自動タイムアウト (秒)	データベース接続のタイムアウト時間。 このオプションは、[自動切断を有効にする] オプションが「はい」の場合にのみ有効となります。	1800
ドキュメント	データベースに挿入可能なドキュメントの最大サイズ (バイト)	[ドキュメント] テーブル (amDocument) に挿入されるファイルの最大サイズです。	5 242 880
システムデータ	ビルド	データベース内にインポートされるシステムデータのビルド番号 システムデータは、データベースの作成時に自動的にデータベース内にインポートされます。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	
タイムゾーン	データ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (分)	データベース内のデータのタイムゾーン。GMTとの時差を指定します。 値を指定しないとタイムゾーンを使わないこととなります。 「0」を指定するとGMTと同じタイムゾーンになります。	-120 (GMTのタイムゾーン - 120)
タイムゾーン	サーバ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (分)	サーバのタイムゾーン。GMTとの時差を入力します。 値を指定しないとタイムゾーンを使わないこととなります。 「0」を指定するとGMTと同じタイムゾーンになります。	240 (GMTのタイムゾーン+240)
イベント管理	出力イベントの有効時間 (時間)	出力イベントとは、データを受け取り、外部アプリケーションにエクスポートする待ちキューです。有効時間に設定された値によって、イベントをいつ消去するかが決まります。	336
イベント管理	入力イベントの有効時間 (時間)	入力イベントとは、入力イベントとデータを受け取り外部アプリケーションからインポートする待ちキューです。有効時間に設定された値によって、イベントをいつ消去するかが決まります。	336

セクション	オプション名	説明	値の例
画面セット	デフォルトの順番	<p>このオプションは、優先度の一番高いものから有効となる画面セットのリストを定義します (Full, Simple など)。</p> <p>このオプションは、以下のユーザタイプがテーブルの表示を要求するときに使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [画面セット] (ScreenSets) フィールドが空のプロファイルに関連付けられたユーザ ■ [管理者権限] (bAdminRight) オプションが選択されているプロファイルに関連付けられたユーザ <p>これらのユーザがテーブルの表示を要求するときには、AssetCenterがオプションによって指定された順番で画面セットの識別子を取り込み、この画面セットに関連付けられた画面が含まれていないか調べるためテーブルを検索します。</p> <p>画面が見つかり、AssetCenterがそれを使ってテーブルを表示します。</p> <p>このデフォルト動作は、そのプロファイルに関連付けられた機能権限によって無効にできます。所定画面へのアクセスを機能権限によって拒否することもできます。</p> <p>例</p> <p>部署と従業員 (amEmplDept) テーブルの従業員は、2つの画面を使って表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 完全画面 : <ul style="list-style-type: none"> SQL名 : amEmplDept 画面セット : Full ■ 単純画面 : <ul style="list-style-type: none"> SQL名 : amEmplDept 画面セット : Simple <p>ユーザHartkeが、部署と従業員テーブルの表示を許可する、[画面セット] (ScreenSets) フィールドが空のユーザプロファイルに関連付けられているとします。</p> <p>[デフォルトの順番] データベースオプションがFull, Simpleの場合、[ポートフォリオ / 部署と従業員] メニューがFull画面セットに関連付けられたamEmplDept画面を表示します。</p>	Full, Simple

セクション	オプション名	説明	値の例
リース	資産リース料率の自動計算の承認	<ul style="list-style-type: none"> ■ はい：資産の [料率] フィールド (pLRF) は、他の使用可能な値に応じて自動的にAssetCenterによって計算されます。 ■ いいえ：資産の [料率] フィールド (pLRF) は、自動的に再計算されません。このフィールド値は、この値に依存する他の値の計算に定数として使用されます。 	はい
パスワード	パスワードの有効日数		はい
パスワード	パスワードの履歴化を使用してパスワードの再使用を避ける。	ユーザパスワードを保存することにより、同じユーザによって同じパスワードが何度も続けて使用されることがないようにします。	はい
パスワード	パスワード失効までの日数	システムアラートを発するまでの日数。	はい
パスワード	パスワード形式の検証に使用するライブラリの名前。	ユーザパスワードの形式を定義するライブラリ。	はい
全文検索	全文検索を有効にする	<p>シンプルフィルタでは、デフォルトで演算子LIKEを使用できます。</p> <p>この演算子は、1フィールドの値内でテキストを検索します。</p> <p>この検索は直接AssetCenterによって実行されます。</p> <p>一部のDBMSでは更に高性能な検索機能が提供されています。</p> <p>この場合、この種の機能を有効にするには、DBMSで機能を有効にする必要があります。</p> <p>この種の検索機能では、LIKEの代わりにCONTAINS演算子が使用されます。</p> <p>[全文検索を有効にする] オプションをオンにすると、シンプルフィルタのエディタで、CONTAINS演算子を使用できるようになります。</p>	はい

インデックス

- & (特殊文字), 43
- < (特殊文字), 43
- アイコン (参考 ツールバー)
- アクション
 - アクションボタン - 作成, 51
- アクションボタン, 51
- アクセスコントロール
 - オプション, 108
- アクセス制限
 - 例外, 41
- インデックス
 - カスタマイズ, 38
 - 挿入, 47
- インポート - オプション, 106
- インポート中の履歴を無効にする (オプション), 106
- ウィザード - オプション, 106
- オブジェクトの設定 (メニュー), 43
- カウンタ
 - デフォルト値, 41
 - 名前 - 特殊文字, 41
- カウンタ名, 41
- カスタマイズ, 15-21
 - ツールバー, 16
 - モジュール, 15
 - 一般的なオプション, 19
 - サーバ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (オプション), 108
 - サイズ (パラメータ), 38
 - システムデータ
 - オプション, 108
 - スロットの更新間隔 (オプション), 108
 - スロットの自動タイムアウト (オプション), 108
 - タイムゾーン, 90
 - タイムゾーン - オプション, 108
 - タイムゾーンの使用 (オプション), 90
 - タブページ, 18
 - タブページの設定 (メニュー), 18
 - ツール (参考 ツールバー)
 - ツールバー
 - カスタマイズ, 16
 - デフォルトのツールバー, 17
 - ボタン
 - 移動, 17
 - 削除, 17
 - 追加, 16
 - 位置, 18
 - 境界線
 - 削除, 17

- 追加, 17
- ツールバーのカスタマイズ (メニュー), 16, 16
- テーブル
 - カスタマイズ, 36
 - 作成, 46
- テーブルの追加 (メニュー), 46
- テスト (参考 テスト用データベース)
- テスト用データベース, 74-78
 - カスタマイズ, 74
- デフォルトの順番 (オプション), 109
- デフォルト値
 - アクセス制限, 41
 - カウンタ, 41
 - コメントテーブルへのリンク, 41
 - 記述 - エラー, 41
 - 特殊フィールド, 41
- デフォルト (パラメータ), 40
- データベース
 - (参考 データベースのカスタマイズ)
 - オプション, 103-110
 - 制限, 103
 - 設定, 103
 - 設定 - ウィンドウ, 104
 - 自動切断 - オプション, 108
- データベースオブジェクト, 62
- データベースオプション (参考 データベース)
- データベースオプション (メニュー), 103
- データベースに挿入可能なドキュメントの最大サイズ (オプション), 108
- データベースのカスタマイズ, 33-65
 - アクションボタン, 51
 - インデックス, 47
 - オブジェクト, 45, 35
 - テーブル, 46, 36
 - フィールド, 47
 - フィールド、リンク、インデックス, 38
 - ページ, 63, 52
 - ボタン, 44
 - リンク, 47
 - 画面, 49, 43
 - 重要な注意事項, 65
 - 変更
 - コントロール, 64
 - バックアップ, 64
 - 言語, 64
 - データベース設定の保存 (メニュー), 43
 - データ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (オプション), 108
 - ドキュメント - オプション, 108
 - パスワード - オプション, 106
 - ビュー, 25-28
 - クエリウィザード, 27
 - ボタン - 関連付け, 28
 - リスト, 27
 - 作成, 27
 - 削除, 27
 - 定義, 26
 - 表示, 27
 - 変更, 28
 - 編集, 28
 - ビルド (オプション), 108
 - フィールド
 - (参考 フィールドとリンクのヘルプ)
 - カスタマイズ, 38
 - デフォルト値, 41
 - 挿入, 47
 - フィールド'XXX'が'XXX'内に見つかりません (エラー), 42
 - フィールドとリンクのヘルプ
 - 予約文字, 43
 - フィールドとリンクのヘルプ - 認識されたHTMLタグ
 - 編集, 42
 - フィールドの追加 (メニュー), 47
 - フィルタ (パラメータ), 39
 - ページ
 - 画面への追加, 63
 - 作成, 52
 - ページの追加 (メニュー), 52
 - ボタン, 44
 - カスタマイズ, 21
 - モジュール, 15
 - モジュールの起動 (メニュー), 16
 - ライセンス
 - データベースに保存されたファイル, 107
 - ライセンス - オプション, 107
 - ライセンスファイル (オプション), 107
 - リース - オプション, 110
 - リース - 料率 - オプション, 110

リセット (ボタン), 20
リンク
 (参考 フィールドとリンクのヘルプ)
 カスタマイズ, 38
 デフォルト値, 41
 挿入, 47
リンクレコードの追加 (メニュー), 47
ワンポイント - オプション, 106
ワンポイントのテキスト (オプション), 106
一般的なオプション, 19
画面
 カスタマイズ, 43
 ページ - 追加, 63
画面セット - オプション, 109
画面の再初期化 (メニュー), 15
画面の追加 (メニュー), 49
階層構造のテーブル, 48
管理者権限 (オプション), 103
経費明細 - オプション, 105
現在のウィンドウから作成 (メニュー), 27
現在のビューをはずす (メニュー), 27
現在のビューを変更 (メニュー), 28
合計した任意管理項目 - オプション, 107, 107
資産リース料率の自動計算の承認 (オプション), 110
自動切断を有効にする (オプション), 108
実行エラー - タイプエラー (エラー), 42
受領時に消耗品の経費明細を作成 (オプション), 105
受領伝票 - オプション, 105
出力イベント - オプション, 108
出力イベントの有効時間 (オプション), 108
書式設定 (パラメータ), 39
消耗品 - オプション, 105
詳細ウィンドウ (参考 画面)
詳細画面 (参考 画面)
親リンクの追加 (メニュー), 48
接続 - スロット - オプション, 108
全文検索 - オプション, 110
全文検索を有効にする (オプション), 110
調達 - オプション, 105
適用 (ボタン), 20
統合された任意管理項目の再計算を無効にする (オプション), 107
特殊フィールド

 デフォルト値, 41
特殊文字, 41
読取り専用 (パラメータ), 38
入力イベント - オプション, 108
入力イベントの有効時間 (オプション), 108
任意管理項目の追加 (オプション), 46
認証 - オプション, 107
認証にLDAPサーバを使用する (オプション), 106
必須 (パラメータ), 39
表示言語
 データベースへのオブジェクトの追加, 64
無関係 (パラメータ), 39
有効 (パラメータ), 36
履歴 - オプション, 106
履歴 (パラメータ), 38
連続するスペース (特殊文字), 43

A

AssetCenter Database Administrator
 (参考 データベースのカスタマイズ)
AssetCenter Serverで受領品をポートフォリオに自動的に作成 (オプション), 105
AssetCenter Server署名 (オプション), 107

B

Basic - オプション, 106
Basic関数 - オプション, 106
Basic関数 (オプション), 106
bin (ファイル), 76
B (HTMLタグ), 42

C

cfg (ファイル), 76

D

dsd (ファイル), 76

F

FONT COLOR (HTMLタグ), 42
FONT FACE (HTMLタグ), 42
FONT SIZE=+n (HTMLタグ), 42
FONT SIZE=-n (HTMLタグ), 42

H

HR (HTMLタグ), 43

HSplitControl (オブジェクト区切り), 62

I

I (HTMLタグ), 43

L

LDAP - オプション, 106

LDAPサーバポート (オプション), 107

LDAPサーバ名 (オプション), 107

LDAPディレクトリのログインを格納する
[amEmplDept] テーブルのフィールドのSQL
名 (オプション), 107

LI (HTMLタグ), 43

S

SQL名

データベースオブジェクト - 競合, 65

str (ファイル), 76

stt (ファイル), 76

U

usr (ファイル), 76

V

VSplitControl (オブジェクト区切り), 62

W

wiz (ファイル), 77

X

xml (ファイル), 76